

# 2

Annual Report 2014

# 診 療 部

外来診療担当表

呼吸器内科

内分泌内科

腎臓内科

神経内科

リウマチ・膠原病センター

糖尿病センター

循環器内科

消化器内視鏡センター

人工透析センター

外科

整形外科

脳神経外科

心臓血管外科

皮膚科

小児科

泌尿器科

耳鼻咽喉科

放射線科

麻酔科

病理部

認知症疾患医療センター

健康増進センター

研修医の紹介

学会発表実績

# 外来診療担当表

(非)=非常勤、(再)=再診

		月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	呼吸器	小林 奨		副島 佳文 (診療部長)		副島 佳文 (新・紹介のみ) (診療部長)		小林 奨				
	内分泌							安部 恵代 (非・再・第2木曜)	大財 茂 (非)	藤山 薫 (非)		
	骨代謝										藤山 薫 (非)	
	腎・透析		森 篤史 (医長)						森 篤史 (再)(医長)	林 和歌 (非)	林 和歌 (非・再)	
	神経内科	新患					竹尾 剛		中村 龍文 (非・隔週)			
		再来	竹尾 剛		竹尾 剛				中村 龍文 (非・隔週)		竹尾 剛	
	リウマチ膠原病センター	新患			岩本 直樹 (非) 一瀬 邦弘 (非)		植木 幸孝				荒牧 俊幸	
		再来	植木 幸孝	植木 幸孝	一瀬 邦弘 (非)	一瀬 邦弘 (非)	辻 創介	寺田 馨	荒牧 俊幸		植木 幸孝	
			荒牧 俊幸		岩本 直樹 (非)	岩本 直樹 (非)			辻 創介		寺田 馨 (センター長)	
			梅田 雅孝 (非)									
糖尿病センター	新患	重野里代子				二里 哲朗		榎本 愛子		松本 一成 (センター長)		
	再来	松本 一成 (センター長) 二里 哲朗		松本 一成 (センター長) 二里 哲朗		松本 一成 (センター長) 重野里代子		松本 一成 (センター長) 重野里代子		重野里代子 二里 哲朗		
循環器内科	新患	木崎 嘉久 (診療部長)		矢野 捷介 (非)		中尾功二郎		木崎 嘉久 (診療部長)		矢野 捷介 (非)		
	再来	落合 朋子		中尾功二郎		木崎 嘉久 (診療部長)		中尾功二郎		木崎 嘉久 (診療部長)		
				本田 智大		落合 朋子				本田 智大		
	検査外来	(中尾功二郎)		(木崎 嘉久)		(本田 智大)				(中尾功二郎)		
		(本田 智大)		(落合 朋子)				(落合 朋子)		(本田 智大)		
									(落合 朋子)			
消化器内科	(消化管)	加茂 泰広		松崎 寿久	富永 雅也 (再) 竹島 史直 (非・隔週)	小田 英俊 (診療部長)	磯本 一 (非・隔週)	小田 英俊 (診療部長)		時村 郁子		
	(肝胆膵)	草場麻里子 (非)		木下 昇		松崎 寿久		加茂 泰広		木下 昇		
	内視鏡担当	小田 英俊		加茂 泰広		草場麻里子		松崎 寿久		小田 英俊		
		松崎 寿久		時村 郁子		岩津 伸一		時村 郁子		加茂 泰広		
		時村 郁子		小田 英俊 時村 郁子		富永 雅也		木下 昇 岩津 伸一		岩津 伸一		
中尾 治彦		中尾 治彦		中尾 治彦		橋爪 聡		草場麻里子				
人工透析センター	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史	森 篤史	森 篤史	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史	森 篤史	森 篤史	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史		
外科	新患	梶原 啓司	※	草場 隆史	※	碓 秀樹	※	重政 有	※	内田 史武	※	
	再来	重政 有								佐々木伸文 (診療部長)		
	(名誉顧問外来)	碓 秀樹		菅村 洋治 (非)		菅村 洋治 (非)		鎌尾 智幸		碓 秀樹		
整形外科 (新患・紹介のみ)	北原 博之		宮原 健次 (診療部長)		北原 博之		宮原 健次 (診療部長)			北原 博之 (第1,3,5週) 宮原 健次 (第2,4週) (診療部長)		
	阪元政三郎 (診療部長)	※	※	※	阪元政三郎 (診療部長)	※	※	※	※	阪元政三郎 (診療部長)	※	
脳神経外科	竹本光一郎					竹本光一郎				竹本光一郎		

2015年7月31日現在

		月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心臓血管外科		※	※	柴田隆一郎 (診療部長)	※	※	※	柴田隆一郎 (診療部長)	※	※	※
				谷口真一郎				谷口真一郎 中路 俊			
皮膚科		山口 宣久 (診療部長)	※	山口 宣久 (診療部長)	※	山口 宣久 (診療部長)	※	山口 宣久 (診療部長)	※	山口 宣久 (診療部長)	※
小児科		山田 克彦 (診療部長)	循環器外来 (第1, 第3, 第5週)	山田 克彦 (診療部長)	乳幼児健診 予防接種	山田 克彦 (診療部長)	心身症外来	アレルギー外来 (第4週休診)	アレルギー外来 (第4週休診)	山田 克彦 (診療部長)	乳幼児健診
		犬塚 幹	心身症外来 (第2, 第4週)	犬塚 幹	神経外来 (第1週休診)	犬塚 幹		犬塚 幹	神経外来	犬塚 幹	生活習慣病外来 (隔週)
泌尿器科	新患	徳永 亨介 (部長)	※		※	徳永 亨介 (部長)			※	徳永 亨介 (部長)	※
	再診	南 祐三		徳永 亨介 (部長)		南 祐三	南 祐三 (前立腺)	徳永 亨介 (部長)		南 祐三	
眼科			上松 聖典 (非)								
耳鼻咽喉科		大里 康雄 (部長)	※	大里 康雄 (部長)	※	大里 康雄 (部長)	大里 康雄 (部長)	大里 康雄 (部長)	※	大里 康雄 (部長)	※
		梅木 寛		梅木 寛		梅木 寛	梅木 寛	梅木 寛		梅木 寛	
放射線科		平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一
		堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)	堀上 謙作 (診療部長)
		末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真	末吉 真
放射線治療計画					山崎 拓也	山崎 拓也					
救急総合診療部☆	内科系	本田 智大 岩津 伸一	二里 哲朗	重野里代子	担当医	加茂 泰広	時村 郁子	本田 智大 落合 朋子	荒牧 俊幸	辻 創介	小林 奨
	外科系	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
メモリークリニック (もの忘れ外来)		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦			井手 芳彦
専門外来	インターフェロン		木下 昇 14:00~16:00 (新患・紹介のみ)								
	ベースメーカー		木崎 嘉久 中尾功二郎 14:00~16:00 (第2, 第4)								
	乳 腺		佐々木伸文 14:00~17:00 (第2, 第4)				碓 秀樹 14:00~17:00				佐々木伸文 13:30~16:30
	ストーマ				重政 有 14:00~16:00 (第2火曜日)						
	禁 煙				菅村 洋治 13:30~15:30						
	ステントグラフト				谷口真一郎 13:00~14:00						
	下肢静脈瘤								柴田隆一郎 14:00~15:00		
	C A P D										
	睡眠時無呼吸外来				近藤 英明 13:00~16:00 (隔週)						
緩和医療	國崎 忠臣 (非)					國崎 忠臣 (非)					
健康増進センター		寺園 敏昭		寺園 敏昭		寺園 敏昭		中尾 治彦		中尾 治彦	
		本多 幸		本多 幸		本多 幸		寺園 敏昭		寺園 敏昭	
		永尾奈津美		永尾奈津美		永尾奈津美		本多 幸		本多 幸	
		田中 伴典 石田佳央理 (交互隔週)						永尾奈津美		永尾奈津美	
乳がん検診	佐々木伸文		内田 史武		佐々木伸文		碓 秀樹		鏡尾 智幸		
健診婦人科(特別顧問外来)	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	

※:主に手術・検査の予定ですが、予定が無い場合は診察いたしますので

受診ご希望の方は予約をお願いいたします。

●:当番医 ☆:救急部24時間体制

土曜日は、休日診療体制とさせていただきます。

Dept. of Respiratory Medicine

# 呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

## ■診療担当医 ※2015年7月31日現在



診療部長  
**副島 佳文**  
(そえじま よしふみ)

鹿児島大学 昭和58年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医  
がん治療認定医  
日本医師会認定産業医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



副部長  
**小林 奨**  
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)

## 診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

**呼吸器感染症**(かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など)

**慢性閉塞性肺疾患**(肺気腫、慢性気管支炎など)

**アレルギー・免疫疾患**(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど)

**間質性肺疾患**(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など)

**肺腫瘍**(原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など)

**気管支拡張症**

**びまん性汎細気管支炎**

**慢性呼吸不全**(在宅酸素療法など)

**慢性咳嗽**

## 診療実績

副島と小林の二人で診療しています。副島は肺癌の化学療法が専門で、小林は呼吸器感染症が専門です。外来は副島が火曜日の午前、午後、水曜日の午前診療を行い、小林が木曜日に診療を行っています。

入院患者さんの疾患構成は、2014年4月1日から2015年3月31日のDPCデータによると肺の悪性腫瘍134件、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎69件、誤嚥性肺炎66件、間質性肺炎30件、抗酸菌関連疾患15件、呼吸不全12件、腎臓または尿路の感染症11件、敗血症9件、気道出血8件、喘息7件でした。

呼吸器内科の主な検査は気管支鏡検査です。気管支鏡検査は水曜日の午後に行っています。末梢肺の小病変に対してはナビゲーションソフト、ガイドシース法を

用いて診断率を上げるようにしています。また肺門、縦隔リンパ節腫大に対しては超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)を行っています。腫瘍の発生させる自家蛍光を観察できる気管支鏡も備えていますので肺門部早期肺癌の診断も可能です。

院内活動に関しては、副島は院内感染対策チームに属し、院内感染の監視や抗菌薬の適正使用についてミーティングを行っています。小林は呼吸療法チームに属し、人工呼吸器装着患者の回診を毎週火曜日に行っています。

院外活動としては副島は佐世保市医師会が行っている肺癌検診のダブルチェックに参加しています。

## ■主な診療実績

(入院)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
入院延患者数	7,640名	7,927名	8,088名	8,356名	7,567名
実入院患者数	423名	380名	397名	402名	429名
退院患者数 (当科 / 全科)	416名 (6.98%)	376名 (6.70%)	389名 (7.01%)	414名 (7.11%)	430名 (6.75%)
平均在院日数	17.4日	21.1日	21.1日	20.7日	19.1日
気管支鏡症例数 (うちガイドシース法)	403件 —	260件 —	221件 —	372件 —	127件 (62件)
(うちEBUS-TBNA)	—	—	—	—	(6件)

(外来)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
外来新患者数	296名	312名	297名	275名	192名
外来再来患者数	1,732名	2,183名	2,353名	2,496名	2,671名

## 臨床研究

- ・長崎大学第二内科と連携し以下の臨床試験、治験を行っています。
- ・医療介護関連肺炎に関する共同研究
- ・65歳以上の高齢者肺炎(NHCAP、誤嚥性肺炎を含む)に対するシタフロキサシンの有効性
- ・慢性閉塞性肺炎の増悪時におけるセフジトレンピボキシルの臨床効果
- ・市中肺炎患者を対象としたT-4288の臨床第Ⅱ相試験

## 認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

Dept.of Endocrinology

# 内分泌内科

バセドウ病や橋本病などの女性に多い甲状腺疾患の診療を行っています。

## ■診療担当医 ※2015年7月31日現在



非常勤  
**大財 茂**  
(おおたから しげる)

長崎大学 昭和52年卒  
医学博士  
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医  
日本東洋医学認定専門医

非常勤  
**藤山 薫**  
(ふじやま かおる)

長崎大学 平成元年卒  
医学博士



非常勤  
**安部 恵代**  
(あべ やすよ)

長崎大学 平成6年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

内分泌内科は甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、骨粗しょう症を含む骨カルシウム代謝疾患を対象として診断・治療を行っています。

甲状腺疾患は頻度が多く、診療の中心になっています。バセドウ病や橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患は

若年から中年女性に多い疾患で、妊娠・出産時は重点的管理を行います。甲状腺がんでは超音波検査や細胞診を行っています。内分泌疾患診断のため、必要に応じてCTあるいはMRI検査に加え、RI検査で甲状腺、副甲状腺、副腎シンチグラムも行っています。

## 診療実績

診療体制は、非常勤医師3名で対応しております。

大財は耀光リハビリテーション病院長を兼務し、毎週木曜日の午後に外来診療を当院にて行っております。藤山は毎週金曜日の午前中に内分泌、午後は骨代謝疾患を中心に診療を行っています。また、安部は月に1度、第2木曜日に長崎大学病院より来院し、外来診療を行っています。

### 超音波(甲状腺)件数

医師名	件数
大財 茂	214
藤山 薫	55
安部 恵代	11
<b>計</b>	<b>280</b>

Dept. of nephrology

# 腎臓内科

腎疾患の発症から末期(透析)まで幅広く治療にあたっています。

**■診療担当医** ※2015年7月31日現在

医長  
**森 篤史**  
(もり あつし)

長崎大学 平成15年  
日本内科学会認定内科医  
日本透析学会専門医  
日本腎臓学会専門医



非常勤  
**林 和歌**  
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本腎臓学会専門医  
日本透析医学会専門医

## 診療内容

診療内容は大きく分けて次の4項目です。

### 診療している主な疾患

#### ○慢性腎臓病(CKD)、とくに生活習慣病に関連した腎臓病の診療

慢性腎臓病のなかでも糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病ともなるものは、末期腎不全のみならず致死的な心血管病を発症しやすいことが知られています。蛋白尿がわかった時点で腎臓専門医により正確な診断がされなければ、治療・管理の方針が立たず、気付かないうちに進行してしまうことがあります。

当院では原疾患の治療、及び食事・生活指導などを多職種共同で包括的にを行います。また、かかりつけ医との連携も積極的に勧めています。

多くの慢性疾患と同じく腎臓病は末期になるまで症状がでません。血液検査や尿検査で異常が出て、健診で慢性腎臓病を指摘された時は、自覚症状がなくても早めに受診することが大切です

#### ○腎炎、ネフローゼ症候群、他の全身病に関連した腎臓病の診療

慢性糸球体腎炎(血尿と軽度～中軽度の蛋白尿を伴い、ゆっくり腎不全になる病気)

ネフローゼ症候群(多量の蛋白尿とむくみを伴う病気)急速進行性糸球体腎炎(数週～数か月で急速に腎不全に進行する病気)などは可能な限り腎生検による診断と治療方針の決定を行います。

治療はガイドラインを参照しながら行います。適応があればステロイド治療を行い、重症あるいは難治性の場合には免疫抑制剤やアフェレーシスを追加します。

#### ○慢性腎不全の診断、治療

保存期の慢性腎不全では、食事療法、血圧コントロール、生活指導を行います。

腎機能の低下するのを防ぎ透析導入までの期間を延長すること、心血管合併症の発症を予防することを目標に治療・管理を行います。もし、腎機能が著しく低下している場合は、透析療法を導入していくための準備を行います。できるだけ負担の少ない導入を行い、円滑に維持透析に移行できるよう努めています。導入後通院や福祉施設が必要な方は、導入前より専門スタッフにご相談ください。また、腎移植が可能な場合は他の医療機関に紹介させていただきます。

## 診療実績

経皮的腎生検……………16例

## 診療体制

- ・新患 (月)PM……………森 (金)AM……………林
- ・再診 (木)PM……………森 (金)AM・PM……………林

## 認定施設

日本透析医学会認定施設

日本腎臓学会研修施設



Dept. of Neurology

# 神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

**診療担当医** ※2015年7月31日現在副院長・診療部長  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会認定専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医非常勤  
**中村 龍文**  
(なかむら たつふみ)

2014年6月就勤

長崎大学 昭和53年卒  
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授  
日本内科学会認定医  
日本神経学会専門医・指導医

## 診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の

場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

## 診療実績

中村の外来診療は、新患・再来ともに、第1・3木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は連携センターで対応しています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的小さいのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見

も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より準教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっていきたく考えています。

## ■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	8名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	13名
多系統萎縮症	3名
脊髄小脳変性症	1名
筋萎縮性側索硬化症	1名
不随意運動疾患	1名
その他のパーキンソニズム	2名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	2名
アルツハイマー型認知症	2名
その他	3名
・てんかん	17名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	5名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	5名
・神経感染症(脳炎、髄膜炎HAMなど)	5名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	3名
・頭痛	2名
・腫瘍	1名
・めまい	1名
・その他	
精神疾患	8名
感染症(肺炎、尿路感染症など)	8名
整形外科的疾患	2名
薬物中毒	1名
その他	6名

## ■臨床検査実施件数

脳MRI・MRA	155件
脊椎(頸椎・胸椎・腰椎)MRI	63件
神経伝導検査	54件
脳波	32件
脳CT	29件
MIBG心筋シンチ	17件
脳血流SPECT	7件
針筋電図	2件

## 認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept. of Arthritis and Lupus Center

# リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

## ■診療担当医 ※2015年7月31日現在



常務理事  
臨床研修・研究統括部長  
**植木 幸孝**  
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェレンス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員



センター長  
**寺田 馨**  
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



副部長  
**荒牧 俊幸**  
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リウマチ学会登録ソングラファー



医員  
**辻 創介**  
(つじ そうすけ)  
2015年4月就勤

長崎大学 平成24年卒



顧問  
**江口 勝美**  
(えぐち かつみ)  
2015年4月就勤

長崎大学 昭和45年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・登録医  
日本内分泌学内分代謝科(内科)専門医



非常勤  
**梅田 雅孝**  
(うめだ まさたか)

長崎大学 平成22年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会登録ソングラファー



非常勤  
**一瀬 邦弘**  
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医  
日本腎臓学会専門医  
日本医師会認定産業医



非常勤  
**岩本 直樹**  
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



医員  
**福田 紘介**  
(ふくだ こうすけ)  
2015年3月退職

長崎大学 平成23年卒

## 診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを主な対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

## 診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断できなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけでなく長期的な視野に立って治療を考える必要があります。患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

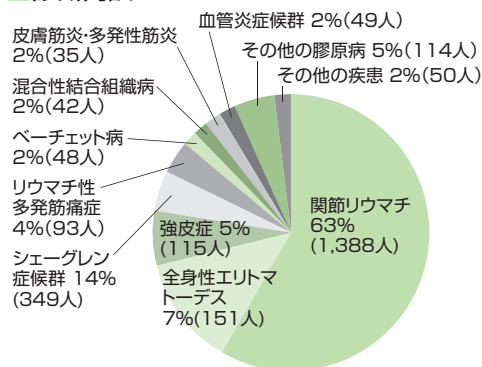
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいええない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思いをします。

## ■ 診断内訳

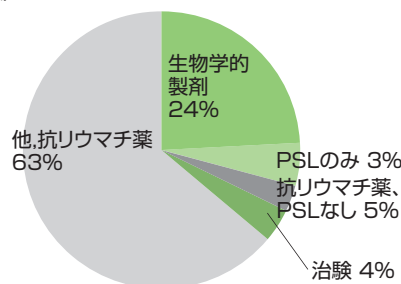
当リウマチ・膠原病センターはおよそ2000名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約600名で、佐世保市、長崎県北部のみならず、島原など県南部からも紹介を受けています。最近では、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約22%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワークを作り、リウマチの地域連携をすすめています。

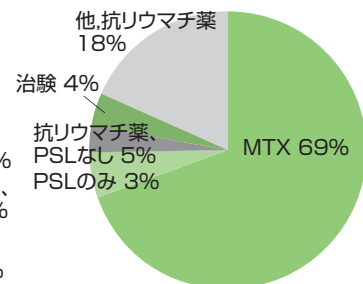
■ 診断内訳 2015年3月統計 (N=2,204)



■ 生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,388人)



■ MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,388人)



## 認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

# 糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

**■診療担当医** ※2015年7月31日現在**センター長**  
**松本 一成**  
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本糖尿病学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
臨床コーチング研究会認定コーチ**医長**  
**森 芙美**  
(もり ふみ)長崎大学 平成17年卒  
日本内科学会認定内科医**医員**  
**二里 哲朗**  
(にり てつろう)

久留米大学 平成24年卒

**医員**  
**重野 里代子**  
(しげの りよこ)  
2015年6月就勤久留米大学 平成23年卒  
日本内科学会認定内科医**医員**  
**榎本 愛子**  
(えのもと あいこ)  
2015年4月就勤  
2015年6月退職山口大学 平成21年卒  
日本内科学会認定内科医**副部長**  
**森 良孝**  
(もり よしたか)  
2015年5月退職  
長崎大学病院へ異動長崎大学 平成12年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本透析医学会専門医  
日本腎臓学会専門医

## 診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資

源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「栄養看護外来」の4つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c (NGSP値) 7%未満を達成されています。

## 診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ130名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ

300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認定教育施設です。常勤医は松本医師・森良孝医師・森芙美医師・二里哲朗医師・榎本愛子医師・重野里



代子医師の6名です。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍しており、連携のとれたチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」も開始しました。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチング

など幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワーメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

### ■糖尿病教室

- 月・二里／栄養士
- 火・栄養士 理学療法士
- 水・松本／栄養士
- 木・栄養士 看護師
- 金・森良孝／栄養士 臨床検査技師

### ■主な診療実績

2014年度新患数	325名
月平均受診者数	892名
平均HbA1c	7.5%

(薬物療法患者対象)

### ■クリニカルインディケータ(薬物療法患者対象)

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2014年度		36.75%	41.47%	35.27%	34.37%	38.89%
	HbA1c7.0未満の患者数	265	316	273	254	490
	薬物治療患者数	721	762	774	739	1,260

\*QI Project 2014

## 認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Cardiology

# 循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

## ■診療担当医 ※2015年7月31日現在



副院長・診療部長  
**木崎 嘉久**  
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒  
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医  
日本循環器学会認定専門医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医・指導医  
同九州地方会運営委員  
日本高血圧学会専門医・指導医  
日本医師会認定産業医  
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長  
**中尾 功二郎**  
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本循環器学会認定専門医  
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



医員  
**落合 朋子**  
(おちあい ともこ)

2015年4月就勤

長崎大学 平成20年卒  
日本内科学会認定内科医



医員  
**本田 智大**  
(ほんだ ともひろ)

佐賀大学 平成22年卒



非常勤  
**矢野 捷介**  
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
長崎国際大学 健康管理学部客員教授  
長崎大学医学部名誉教授  
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医  
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医  
介護老人保健施設長寿苑顧問



医長  
**赤司 良平**  
(あかし りょうへい)

2015年3月退職  
長崎大学病院へ異動

宮崎大学 平成18年卒  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など
- 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症 など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

## 診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管イン

ターベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携せ

ンターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2015年3月までに地域医療機関88施設(病院15 医院・診療所73施設)との間で、延べ327症例で運用しています。

## ■主な診療実績 2014年(1/1-12/31)

心エコー図検査	3,123例
心臓カテーテル検査	376例
大動脈CT	322例
心臓CT(冠動脈CTA)	295例
心筋シンチ	186例
心血管インターベンション加療	160例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	56例
末梢血管インターベンション加療	29例
年間入院数	558名
(うち急性心筋梗塞48名)	

## ■循環器関連機器

心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio	
GE社製 vivid i	GE社製 vivid E9
64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Allura Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i	
負荷 ECG装置	
エルゴメータ1台	トレッドミル1台
RI装置	1台
MRI	1.5T……1台
	3.0T……1台(心血管 MRA対応可)

## 認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

## 施設対応

- ・Medtronic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設



Dept. of Gastroenterological Endoscopy

# 消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

## 診療担当医 ※2015年7月31日現在



副院長・センター長  
**木下 昇**  
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員  
日本感染症学会ICD (インフェクションコントロールドクター)



診療部長  
**小田 英俊**  
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医



医長  
**松崎 寿久**  
(まつざき としひさ)

長崎大学 平成14年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医長  
**加茂 泰広**  
(かも やすひろ)

長崎大学 平成17年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医長  
**時村 郁子**  
(ときむら いくこ)

2015年6月就勤

山口大学 平成18年卒



医員  
**岩津 伸一**  
(いわつ しんいち)

2015年6月就勤

長崎大学 平成23年卒



医員  
**松本 耕輔**  
(まつもと こうすけ)

2015年5月退職  
五島中央病院へ異動

長崎大学 平成23年卒



医員  
**永松 雅朗**  
(ながまつ まさろう)

2015年5月退職  
長崎大学病院へ異動

熊本大学 平成23年卒

## 診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)

- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよびEMR (内視鏡的ポリープ切除術)
- ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術 胃瘻造設術
- ・異物除去
- ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
- ・内視鏡的総胆管結石除去術

肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンを中心とした治療肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下エタノール局注療法及びラジオ波焼灼療法を行っています。

## 診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間5,376件(2014年度実績)実施し、うち499件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,300件(2014年度実績)実施し、うち約422件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

### ■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5,376件
下部消化管内視鏡検査	1,300件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	64件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	59件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	9件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	332件
内視鏡的止血術	198件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	15件
内視鏡的拡張術	40件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	20件

カプセル型小腸内視鏡検査	22件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	171件
超音波内視鏡検査(EUS)	119件
内視鏡的異物除去術	13件
肝生検	21件
エタノール局注療法(PEIT)	26件
ラジオ波焼灼療法(RFA)	
インターフェロン治療導入	19件
インターフェロンフリー治療導入	15件
B型肝炎核酸アナログ導入	11件

## 認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設

Dept. of artificial dialysis Center

# 人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

**■診療担当医** ※2015年7月31日現在常務理事  
臨床研修・研究統括部長**植木 幸孝**

(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェレンス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員

医長

**森 篤史**

(もり あつし)

長崎大学 平成15年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本透析学会専門医  
日本腎臓学会専門医

非常勤

**林 和歌**

(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本腎臓学会腎臓専門医  
日本透析医学会専門医

## 診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は次のとおりです。

**〈腎臓疾患〉**

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、  
膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

**〈自己免疫疾患〉**

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

## 診療実績

常時80人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2013年度に全国で維持透析導入された患者数は38,000人を超え、また維持透析患者数も314,000人を超えました。また、導入時平均年齢は男性が67.86歳、女性は70.37歳、全体の平均年齢は68.68歳、当院においても男性69.81歳、女性68.8歳、全体では69.57歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析患者数は全国で24,115人と、前年度と比べ832人増加し、全透析患者の中の7.8%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん

特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりました。人工透析センターは、さまざまな科を有する総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2013年度99回、2014年度51回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ99回、91回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

## ■主な診療実績

- ・維持透析患者数 ..... 84人  
2015年3月31日現在
- ・維持透析導入患者  
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)  
2013年度 ..... 23人  
2014年度 ..... 21人

- ・特殊血液浄化療法施行回数  
(2013年 4月1日～2015年3月31日)延べ回数

	2013年度	2014年度
LCAP	64	45
GCAP	0	0
血漿交換 他	24	32
エンドトキシン吸着	11	14
CHDF	99	51

## 認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Surgery

# 外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

## ■診療担当医 ※2015年7月31日現在



理事  
病院長  
**碓 秀樹**  
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本医療マネジメント学会評議員



副院長・手術部長  
**梶原 啓司**  
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化管学会胃腸科認定医



診療部長  
**佐々木 伸文**  
(ささき のぶひこ)

宮崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本乳癌学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長  
**重政 有**  
(しげまさ ゆう)

防衛医科大学 平成2年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本肝胆膵外科学会高度技術指導医・評議員  
消化器がん外科治療認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長  
**草場 隆史**  
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒  
医学博士  
日本外科学会認定医・専門医



医員  
**鏡尾 智幸**  
(てつお ともゆき)  
2015年4月就勤

長崎大学 平成22年卒



医員  
**内田 史武**  
(うちだ ふみたけ)  
2015年4月就勤

高知大学 平成23年卒



名誉顧問  
**國崎 忠臣**  
(くにさき ただおみ)

長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤  
**菅村 洋治**  
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒  
日本外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医



医員  
**濱田 聖暁**  
(はまだ きよあき)  
2015年3月退職  
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成19年卒



医員  
**高村 祐磨**  
(たかむら ゆうま)  
2015年3月退職  
長崎原爆病院へ異動

長崎大学 平成23年卒



## 診療内容

現在7名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っていま

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍などに対して年間約40例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

## 診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2014年度は2,213台の救急車を收容し、89例の外科緊急手術を施行しました。

### ■主な診療実績

－手術症例数－

手術総数 579 (全身麻酔455、腰椎麻酔49、局所麻酔75)					
(1)乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	87例 73例 14例	(6)胃十二指腸潰瘍(穿孔)	6例	(11)胆石症 ・腹腔鏡下	62例
(2)甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	7例 5例 2例	(7)小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	31例 23例 1例	(12)胆嚢腫瘍 ・腹腔鏡下	59例 3例
(3)呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 25例)	40例	(8)大腸腫瘍 ・結腸癌 ・直腸がん ・盲腸がん	77例 57例 15例 5例	(13)胆管腫瘍 (14)肝腫瘍(肝切除) ・原発性 ・転移性	2例 7例 4例 3例
①肺がん	23例	(内 腹腔鏡下手術 27例)		(15)膵腫瘍	9例
②良性肺腫瘍	2例	(9)大腸良性疾患(穿孔)	12例		
③縦隔腫瘍	6例	(10)ヘルニア	65例		
④気胸	7例	・鼠径	56例		
⑤その他	2例	・大腿	3例		
(4)食道がん	6例	・閉鎖孔	1例		
(5)胃腫瘍 ・胃がん	50例 42例	・腹壁	3例		
		・臍	2例		
		(内 腹腔鏡下手術 21例)			
(内)緊急手術89(全身麻酔73、腰椎麻酔13、局所麻酔3)					
・急性虫垂炎	24例	・気胸	2例	・小腸穿孔	2例
・腸閉塞	22例	・大腸がん	6例	・下部消化管穿孔	2例
・ヘルニア嵌頓	12例	・上部消化管穿孔	6例	・胆石、胆のう炎	2例
				・その他	9例



## 認定施設

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定研修施設

Dept.of Orthopaedic surgery

# 整形外科

運動器のけがや病気を治療しています。特に関節鏡を用いた手術を沢山行っています。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



診療部長  
**宮原 健次**  
(みやはら けんじ)

長崎大学 昭和58年卒  
日本整形外科学会 整形外科専門医  
日本整形外科学会 リウマチ医  
日本整形外科学会 脊椎脊髄病医  
身体障害者法 長崎県指定医



部長  
**北原 博之**  
(きたはら ひろゆき)

福岡大学 平成2年  
日本整形外科学会 整形外科専門医  
日本整形外科学会 スポーツ専門医  
日本体育協会 スポーツ専門医  
身体障害者法 長崎県指定医

## 診療内容

2014年6月より整形外科医2人体制で10年ぶりに再スタートしました。

1年間で手術症例377例と初年度としては好調なスタートとなりました(10ヶ月では312例)。

内訳としては下記の如くです。

脊髄手術以外の殆どの整形外科疾患を網羅していると思われませんが、中でも肩関節に関しては佐世保市内でも有数の病院になりました。

人工関節手術や骨切り手術、関節鏡視下の手術、各種骨折の治療など幅広く診療をしていく所存です。

## 診療実績

### 全手術症例：312例

(H26.6月～H27.3月までの10カ月間)

#### 1) 肩関節：71例

- ① 関節鏡視下手術 ..... 52例
- 腱板修復術 ..... 41例
- (パッチ形成2例を含む)
- 関節唇修復 ..... 3例
- 授動術 ..... 7例
- 石灰除去 ..... 1例
- ② 脱臼に対する制動術 ..... 5例
- ③ 人工骨頭挿入術 ..... 1例
- ④ 観血的滑膜切除 ..... 1例
- ⑤ 上腕骨近位骨折骨接合 ..... 12例

#### 2) 膝関節：33例

- ① 関節鏡視下手術 ..... 24例
- 半月板切除 ..... 13例
- 半月板縫合 ..... 3例
- 滑膜切除 ..... 4例
- タナ切除 ..... 1例
- 遊離体摘出 ..... 1例
- ACL再建術 ..... 2例
- ② 骨切り術 ..... 7例
- (内骨軟骨移植追加2例)
- ③ 膝蓋骨制動術 ..... 2例



**3)人工関節：23例**

①膝関節全置換	21例
	(内リウマチ2例)
②股関節全置換	2例
	(内リウマチ1例)

**4)大腿骨頸部骨折：82例**

転子部骨折:骨接合	49例
内側骨折:骨接合	10例
人工骨頭挿入	23例

**5)その他の骨折：73例**

**6)リウマチ関連：14例**

手の手術	6例
足の手術	8例

**7)切断術：12例**

大腿切断	4例
下腿切断	4例
足趾切断	3例
手指切断	1例

**8)その他：20例**

アキレス腱断裂	6例
足関節靭帯断裂	3例
尺骨神経移行	1例
手根管解放	2例
ばね指	8例

合計328手術(312症例)

**認定施設**

まだ1年未満なので申請できていませんが、まもなく日本整形外科認定施設を申請予定です。

Dept. of neurosurgery

# 脳神経外科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。

## 診療担当医 ※2015年7月31日現在



副院長・診療部長  
**阪元 政三郎**  
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒  
医学博士  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医  
長崎県北脳卒中研究会世話人  
長崎県北神経懇話会世話人  
福岡脳卒中連携セミナー世話人  
福岡脳卒中救命セミナー世話人  
福岡大学臨床教授



医長  
**竹本 光一郎**  
(たけもと こういちろう)

福岡大学 平成15年卒  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医  
日本脳神経血管内治療認定医・指導医



医員  
**福本 博順**  
(ふくもと ひろのり)  
2014年10月就勤

福岡大学 平成24年卒



医員  
**榎本 年孝**  
(えのもと としゆき)  
2015年4月就勤

福岡大学 平成22年卒



医員  
**藤原 史明**  
(ふじはら ふみあき)  
2015年4月就勤

宮崎大学 平成23年卒



医員  
**高原 正樹**  
(たかはら まさき)  
2015年3月退職  
福岡市民病院へ異動

福岡大学 平成22年卒



医員  
**小林 広昌**  
(こばやし ひろまさ)  
2014年9月退職  
福岡大学病院へ異動

福岡大学 平成21年卒

## 診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を24時間体制で行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

## 診療実績

1995年大和町へ移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の

地域脳卒中センターに認定され、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中患者を24時間体制で受け入れ、CT、MRI、超音波検査を即時に行うことで、早期診

断・治療を開始できています。最近は脳梗塞患者が増加し、超急性期血栓溶解療法(t-PA)のみならず血管内治療専門医による再開通療法(血行再建術)も増加傾向にあります。

リハビリはPT・OT・STが揃っており、365日休みなしの体制でリハビリを行い、更にロボットスーツHALを用いた最新のリハビリも開始しています。また、脳卒中連携パスを用いて急性期から回復期への患者さんの管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されています。

2009年に手術顕微鏡(Zeiss社OPMI Pentrero)も新しくなり、機能性が向上し、術中蛍光血管造影が可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等で、より安全・確実な治療が可能となりました。また、2011年に神経内視鏡(軟性鏡:オリンパス社、硬性鏡:STORT社)を導入し、低侵襲治療として、脳出血、硬膜下血腫、下垂体、動脈瘤治療等に積極的に使用しています。2012年12月より3.0T MRIが導入され、2台のMRIが稼働し、急患対応ならびに、画像診断の向上

が図れています。

また、16ch神経生理モニターを購入し、術中モニタリングやICUでの脳波モニタリングで、より安全・確実な治療が可能となり、2013年4月から血管内治療専門医による動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する緊急血行再建術が常時可能となり、2014年6月には新しい血管造影機器(フィリップス社)に更新されました。画質が精細かつクリアとなり、また3D画像・CT様画像がリアルタイムに撮影でき、治療が安全・スムーズに行えるようになりました。

手術に関しては、血管内治療が増え、年間件数も年々増加しています。

福岡大学脳神経外科との協力のもと、脳神経外科疾患の全般にわたる治療が可能となり、今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

## ■主な診療実績

- ・外来患者数:5,260名
- ・入院患者数:566名(昨年度 461名)
- 手術症例数 244件、脳虚血患者 266名 t-PA 11例 (件)

手術名	2012年 1月~12月	2013年 1月~12月	2014年 1月~12月
開頭クリッピング	14(SAH 9)	18(SAH 7)	19(SAH 11)
動脈瘤コイルリング	5(SAH 2)	11(SAH 7)	12(SAH 2)
脳出血開頭血腫除去	17	18	18
脳動静脈奇形摘出	0	1	1
頸動脈内膜剥離術	5	6	9
頸動脈ステント留置術	3	13	13
STA-MCAバイパス	3	1	3
脳腫瘍摘出(下垂体)	14(3)	15(1)	18(2)
急性硬膜外血腫	3	2	2
急性硬膜下血腫	9	8	22
慢性硬膜下血腫	36	44	33
V-Pシャント	9	8	8
頭蓋外ステント	1	0	5
頭蓋形成術	5	3	8
髄液ドレナージ	5	9	15
外減圧	1	2	8
頸椎前方固定	0	0	1
腫瘍除去	1	1	0
神経血管減圧術	0	0	0
緊急血行再建術	0	5	15
上記以外血管内治療	2	7	10
その他	10	26	24
計	143	198	244

Dept. of Cardiovascular Surgery

# 心臓血管外科

低侵襲心臓手術(MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery)も可能となりました。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



副院長・診療部長・  
救急部長  
**柴田 隆一郎**  
(しばた りゅういちろう)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本外科学会外科専門医  
日本救急医学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本胸部外科学会正会員  
日本胸部外科学会九州地方会評議員  
長崎大学心臓血管外科非常勤講師  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



副部長  
**谷口 真一郎**  
(たにぐち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
三学会構成心臓血管外科修練指導者  
三学会構成心臓血管外科専門医  
心臓血管外科国際会員  
日本脈管学会認定脈管専門医  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医  
ICD(インフェクションコントロールドクター)



医長  
**中路 俊**  
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒  
日本外科学会専門医  
三学会構成心臓血管外科専門医  
心臓リハビリテーション指導士  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

## 診療内容

常時24時間緊急に対応できる体制を整え、診療を行っています。また、循環器内科・放射線科の医師と綿密に連絡を取り合い、患者さんに最適な医療を提案しています。私たちは心臓疾患・大血管疾患・末梢血管疾患の外科治療を主に診察しています。

### ①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

### ②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

#### 〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要がある治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。

### ③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて

診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

## 診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
開心術(OPCAB)	38(10)	31(13)	45(11)	57(12)
胸部大血管(ステントグラフト)	6(1)	10(2)	7(3)	10(9)
腹部大血管(ステントグラフト)	13(2)	21(11)	31(10)	17(11)
末梢動脈	18	21	25	20
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	80	73	145(111)	169(145)
内シャント造設術	28	36	32	38

## 認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of Dermatology

# 皮膚科

皮膚科は月曜日から金曜日まで毎日午前9:00～12:00まで一般外来診療を行っています。  
午後は検査・外来小手術・院内外来診療・入院患者診療などを行っています。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



副部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

## 診療内容

皮膚科領域全般にわたり診療しています。爪疾患や毛髪疾患、および粘膜疾患(口腔・陰部)の一部も皮膚疾患に含まれます。

湿疹、薬疹、尋常性乾癬、水疱症、じんましん、水虫、

ニキビ、ヘルペス、虫さされ、やけど、切り傷、床ずれなどのほか、皮膚・皮下腫瘍の検査・手術、巻き爪(陥入爪)に対する処置、皮膚症状を伴う糖尿病・膠原病などの内科的疾患に伴う皮膚症状も行っています。

## ■主な検査・治療

### 《検査》

- ・貼付試験(パッチテスト)
- ・皮下腫瘍の診断補助として、ダーモスコピー、エコー、CT、MRI検査などを用いた画像検査
- ・皮膚生検:疾患の診断、病変の深達度を診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除します。局所麻酔下を実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。

### 《治療》

- ・冷凍凝固療法
- ・光線療法:ナローバンドUVB療法
- ・局所免疫療法:SADBE療法
- ・巻き爪の治療:弾性ワイヤー治療, 陥入爪根治術療法(フェノール法)
- ・男性型脱毛症:当院には飲み薬のプロペシアがありません。(保険適用外)

## 診療実績

### ■患者数

- ・一般外来(入院中外来を除く)…………… 4,557人
- ・入院…………… 65人

### ■外来手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 20例
- ・皮膚悪性腫瘍切除術…………… 3例
- ・陥入爪根治術…………… 4例

### ■検査件数

- ・皮膚組織試験採取術(皮膚生検)…………… 42例

### ■入院手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 1例
- ・陥入爪根治術…………… 1例



Dept.of pediatrics

# 小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

## 診療担当医 ※2015年7月31日現在



診療部長  
**山田 克彦**  
(やまだ かつひこ)

大分医科大学 平成2年卒  
日本小児科学会認定小児科専門医  
日本循環器学会認定循環器専門医  
日本小児循環器学会会員  
日本川崎病学会会員  
日本小児アレルギー学会会員



部長  
**犬塚 幹**  
(いづつか みき)

大分医科大学 平成6年卒  
日本小児科学会認定小児科専門医  
日本小児神経学会認定小児神経専門医  
日本てんかん学会認定てんかん専門医  
日本外来小児科学会会員

## 診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、心身症や発達障害、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)にも正面から取り組んでいます。

## 診療実績

### 入院

区分	件数
入院延患者数	965
新入院患者数	176

### 入院患者の内訳

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	23	急性胃腸炎	19
D	血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3		
E	内分泌、栄養および代謝疾患	21	低身長	6
F	神経および行動の障害	8	発達遅滞	5
G	神経系の疾患	13	てんかん	8
H	耳および乳様突起の疾患	2	起立性調節障害	5
I	循環器系の疾患	5	肺炎	52
J	呼吸器系の疾患	77		
L	皮膚および皮下組織の疾患	1		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	3	川崎病	3
N	腎尿路生殖器系の疾患	6	ネフローゼ	4
Q	先天性奇形、変型および染色体異常	2		
R	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1		
T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	11	食物アレルギー	11
T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	176		
合計		174		



**■外来**

区 分	件 数
外来延患者数	3,967
初診（新規 ID 取得）患者数	374

**■専門的医療**

区 分	件 数
心身症カウンセリング	170
脳波検査	210
心エコー検査	157
トレッドミル試験	10
経口糖負荷試験（OGTT）	6
経口負荷試験（食物アレルギー）	9
成長ホルモン分泌刺激試験	5

Dept. of urology

# 泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



部長  
**徳永 亨介**  
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医



理事  
非常勤  
**南 祐三**  
(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医・指導医

## 診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

## 診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができ有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関与できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2014年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張る理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

## ■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術 .....	32例	膀胱全摘除術 + 尿路変更術 .....	0例
経尿道的前立腺切除術 .....	7例	その他手術 .....	8例
前立腺がん全摘出術 .....	0例	前立腺針生検 .....	38例
腎摘出術 .....	0例		

## 認定施設

泌尿器科専門医教育施設

Dept. of Otolaryngology

# 耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



部長  
**大里 康雄**  
(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒  
日本耳鼻咽喉科学会専門医



副部長  
**梅木 寛**  
(うめき ひろし)

2015年4月就勤

富山医科薬科大学 平成11年卒  
日本耳鼻咽喉科学会専門医

## 診療内容

2015年4月より、これまでの「常勤医+非常勤1名」の体制から「常勤医2名」体制へ変更となりました。今後は以下の疾患に加え、頭頸部良性腫瘍の手術なども対応できるよう努力してまいります。

### <耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

### <鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術
- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

### <咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出手術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

## 診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査) ..... 40例  
 両側口蓋扁桃摘出手術 ..... 11例  
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術 ..... 10例  
 気管切開術 ..... 6例  
 鼓室形成術 ..... 3例  
 鼓膜形成術 ..... 3例

鼻中隔矯正術 ..... 3例  
 声帯ポリープ切除術 ..... 3例  
 鼻腔良性腫瘍 ..... 1例  
 舌良性腫瘍 ..... 1例  
 アデノイド切除 ..... 1例  
 咽頭蓋のう胞摘出 ..... 1例

Dept. of Radiology

# 放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

**■診療担当医** ※2015年7月31日現在理事・副院長  
地域医療連携センター長  
医療情報本部長**平尾 幸一**  
(ひらお こういち)長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
日本ハイパーサーミア学会認定医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
九州・山口ハイパーサーミア研究会世話人

診療部長

**堀上 謙作**  
(ほりかみ けんさく)長崎大学 平成5年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
検診マンモグラフィ読影認定医

部長

**末吉 真**  
(すえよし まこと)長崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

**山崎 拓也**

(やまざき たくや)

宮崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会治療専門医  
日本放射線腫瘍学会認定医  
日本がん治療認定医

## 診療内容

**■画像診断業務**

- ・CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- ・CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1618件/年）
- ・当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- ・検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- ・検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- ・CT、MRI、核医学の報告書は約99%が検査後24時間以内に作成されています。

**■IVR**

- ・血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- ・内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- ・非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- ・胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

**■放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）**

- ・毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- ・地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- ・他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

## 診療実績

### 画像診断

胸部単純X線写真読影	17,718件
血管造影検査	117件
CT	14,015件
MRI	6,940件
マンモグラフィ	2,969件
核医学検査	1,464件

### IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	32件
消化管出血の塞栓術	5件
リザーバー留置術	1件
透析シャントの血管拡張術	29件
大動脈ステント内挿術	19件
その他	17件
非血管系IVR	
胆道ドレナージ・内瘻化	23件
膿瘍ドレナージ	9件
生検(超音波・CTガイド下)	9件
マーキング(CTガイド下)	2件
その他	3件

### 放射線治療

乳房	32件
肺	7件
膀胱・前立腺	25件
肝臓・胆道・膵臓	17件
食道	5件
その他	51件

■ハイパーサーミア ..... 40件

## 外来診療体制

### 画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30

地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。

なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

### 放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放

射線治療計画を立てて行います。

### ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

### 健診への協力

健診画像(肺CT、脳MRI、胸部写真、マンモグラフィ)の全件を読影しています。

## 認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設

Dept. of anesthesiology

# 麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

**■診療担当医** ※2015年7月31日現在

診療部長

**堤 雅俊**

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒  
麻酔標榜医

部長

**福島 浩**

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒

## 診療内容

当科はスタッフ2名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにお

いて看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

## 診療実績

2014年度の手術症例は1,404例で、全身麻酔症例は945例(うち緊急手術は113例)でした。

各科別では外科441例(緊急58例)・脳神経外科128例(緊急47例)・心臓血管外科275例(緊急6例)・整形外科70例・泌尿器科4例(緊急1例)・耳鼻咽喉科27例(緊急1例)でした。

2014年度の手術時間では、8時間を超える症例が19例で、最長は15時間23分でした。年齢別では、80歳以上の高齢者が148例でした。うち、90歳以上が12例でした。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス麻酔とプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔

と半々です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(全身麻酔後)を受け入れています。

2014年度は1,080名の入室があり、稼働率は81.8%で1月が90.6%と最も高く、11月が78%と最も低い稼働でした。内訳は外科405名・脳神経外科369名・循環器内科108名・心臓血管外科101名・一般内科31名・消化器内科21名・整形外科20名・呼吸器内科17名・腎臓内科5名・泌尿器科2名・耳鼻咽喉科1名でした。



Dept. of Pathology

# 病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

## 診療担当医 ※2015年7月31日現在



診療部長  
臨床検査部長  
**米満 伸久**  
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
日本臨床検査医学会管理医  
死体解剖資格  
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)  
佐賀大学医学部臨床教授  
佐賀大学医学部非常勤講師  
佐世保市医師会看護学校非常勤講師  
Pathology International編集委員

非常勤  
**戸田 修二**  
(とだ しゅうじ)

佐賀大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
死体解剖資格  
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学 教授

非常勤  
**内橋 和芳**  
(うちはし かずよし)

佐賀大学 平成11年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
日本整形外科学会専門医  
死体解剖資格



非常勤  
**山本 美保子**  
(やまもと みほこ)

佐賀大学 平成19年卒  
日本病理学会病理専門医  
死体解剖資格

非常勤  
**三浦 史郎**  
(みうら しろう)

長崎大学 平成14年卒  
死体解剖資格

非常勤  
**田中 伴典**  
(たなか とものり)

富山医科薬科大学 平成21年卒

非常勤  
**上木 望**  
(うえき のぞみ)

長崎大学 平成24年卒

非常勤  
**山崎 真希子**  
(やまさき まきこ)

佐賀大学 平成22年卒

非常勤  
**石田 佳央理**  
(いしだ かおり)

藤田保健衛生大学 平成25年卒

## 診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いてきましたが、他の胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、陽性コントロール、陰性コントロールを常に併用することにより、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも



分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。キャンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところです。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2014年度はCPCを7回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年 30~40例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどで内視鏡所見や ESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表しています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・第2病理学教室とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒後教育にも積極的に取り組んでいます。

## 診療実績

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
組織診断	1,992件	2,279件	2,358件	2,922件
細胞診断	4,544件	4,842件	4,837件	4,892件
解剖	10件	21件	10件	14件
剖検CPC	6件	10件	11件	7件
診療病理カンファレンス	75件	81件	51件	48件

Dept.of Medical Center of Cognitive Disorders

# 認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2015年7月31日現在



認知症統括顧問  
センター長

井手 芳彦

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒  
医学博士  
認知症サポート医  
日本神経学会認定専門医  
日本内科学認定内科医

## 診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任看護師1名、専任診療アシスタント2名、医療秘書2名の総勢9名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラムまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。周辺症状または行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉體・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

## 診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち期間が2ヶ月と長いのが悩みの種でしたが、2013年7月より診察と諸検査をスピードアップする診療システムに変更しました。その結果、予約から診療までの待ち時間は平均2週間、急ぎの場合は1週間以内に検査と診療が可能になりました。

月曜日～木曜日は午前中の4時間、金曜日は午後

3時間半を外来診療に当て、月平均40名の新規患者さんを診ています。しかしながら認知症患者さんからの相談は増えつづけ、現在では予約から診療開始まで2ヶ月間ほどかかるようになりました。短縮できる努力をしていますが、なかなか困難です。

2014年4月から2015年3月までの1年間で、ご家族から直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん476人

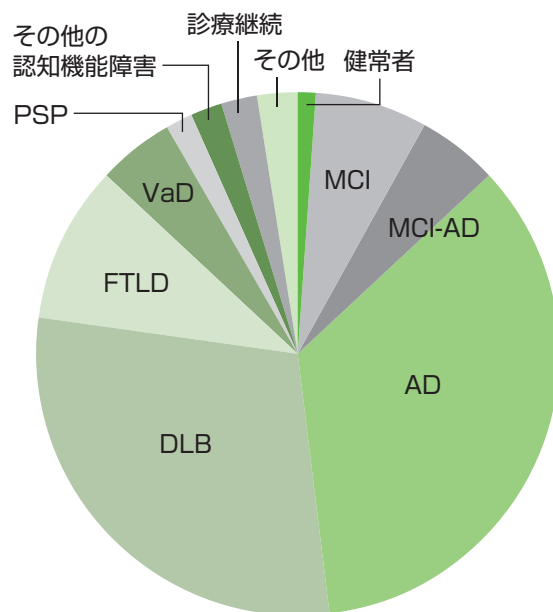
の診察を行いました。また、電話・面談では年間1,038件の相談を受けました。

鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が12%、アルツハイマー型認知症(AD)が約35%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が29%、前頭側頭葉変性症(FTLD)が10%です。純粋な血管性認知症は5%以下です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は實際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

受診予約をして診療待ちの家族、および確定診断のついで患者さんの家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月1回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して3時間ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いていただきます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は、一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族にこの授業を受けていただきたいと考えています。

### ■疾患別割合 (2014.4.1~2015.3.31)

疾患名	人数	%
Healthy	6	1.3
MCI	33	6.9
MCI-AD	24	5.0
アルツハイマー型認知症	166	34.9
レビー小体型認知症(DLB)	139	29.2
前頭側頭葉変性症(FTLD)	46	9.7
血管性認知症(VaD)	23	4.8
進行性核上性麻痺(PSP)	8	1.7
その他の認知機能障害	9	1.9
診療継続	10	2.1
その他	12	2.5
合計	476	100.0



### ■相談件数

(単位:件)

	相談件数	初診のための相談	定期受診・その他
相談件数	1038(847)	815(675)	223(134)
電話		744(615)	—
面談		71(60)	—

( )は前年度統計

### ■診療件数

(単位:件)

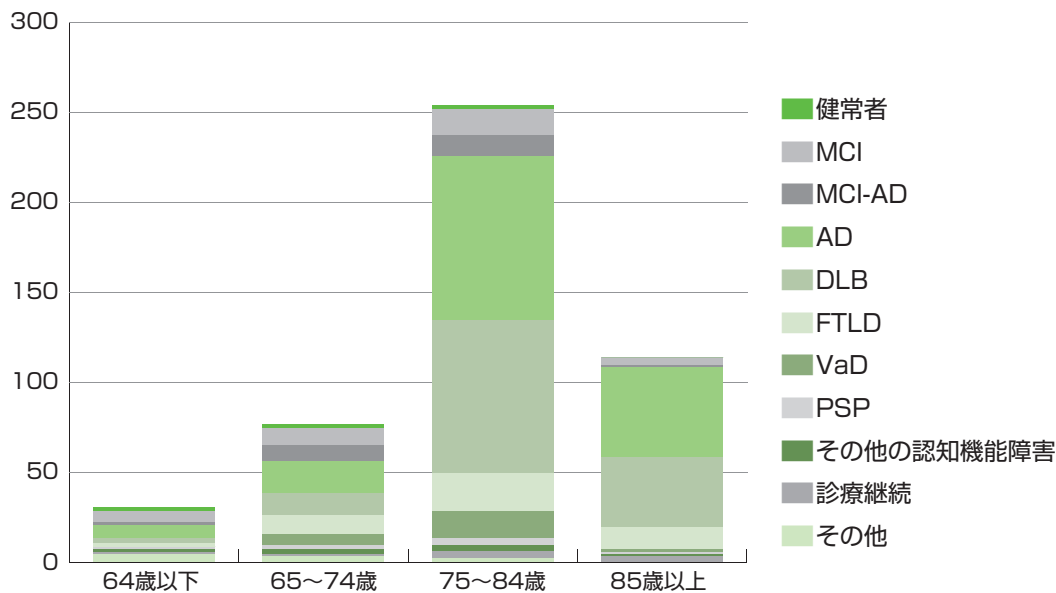
	初診	追加検査の結果説明	薬効評価	定期受診
患者数	476(470)	74	96	88(72)

( )は前年度統計

■年代別・男女別 疾患の割合 (2014.4.1~2015.3.31)

	~64	65~74	75~84	85~	男女別疾患別の割合(%)	男性	女性
Healthy	2	2	2	0	Healthy	1.1	1.4
MCI	6	9	14	4	MCI	7.6	6.5
MCI - AD	2	9	12	1	MCI→AD	6.5	4.1
アルツハイマー型認知症	7	18	91	50	AD	30.3	37.8
レビー小体型認知症(DLB)	3	12	85	39	DLB	23.2	33.0
前頭側頭葉変性症(FTLD)	2	11	21	12	FTLD	16.2	5.5
血管性認知症(VaD)	0	6	15	2	VaD	4.9	4.8
進行性核上性麻痺(PSP)	1	2	4	1	PSP	2.7	1.0
その他の認知機能障害	2	3	3	1	その他の認知機能障害	2.7	1.4
診療継続	1	1	4	4	診療継続	0.5	3.1
その他	5	4	3	0	その他	4.3	1.4
合計	31	77	254	114			

(単位:人)



■初診受診者居住地 (単位:人)

	2014.4.1~2015.3.31
佐世保市内	390(82.0%)
市外・県外	86(18.0%)

市外：平戸市(22)、西海市(15)、松浦市(14)、佐々町(8)  
 波佐見町(8)、川棚町(5)、小値賀町(3)、上五島(2)  
 東彼杵町(1)、大村市(1)  
 県外：(7) (単位:人)

■初診患者の介護保険 (単位:人)

	2014.4.1~2015.3.31
介護保険有り	221
介護保険無し	254
佐世保市内地域包括支援センターへの紹介	115(97)

( )は前年度統計

## 認知症疾患地域支援ネットワーク会議

- 【参加メンバー】 佐世保市長寿社会課職員  
市内9地域包括支援センター連携担当者  
佐世保中央病院認知症疾患医療センター職員
- 【日時・場所】 毎月1回15:00～17:00  
佐世保中央病院会議室
- 【検討内容】 各連絡・報告事項および検討事項  
症例検討(QandA集作成)

## 認知症サポート医等フォローアップ研修会(佐世保・長崎県北地区)

2015年3月14日 佐世保市医師会館で開催

- 1) 事例検討 「診断・治療・介護に難渋したレビー小体型認知症例」
- 2) 市民向け「認知症パス～佐世保市版～」
- 3) 「認知症の家族を18年間にわたり在宅で介護した体験記」
- 4) 特別講演「レビー小体型認知症を見のがさない」

東北大学医学系研究科 高次機能障害学 教授 森 悦朗 先生

Health Care Center

# 健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

## 診療担当医 ※2015年7月31日現在



センター長  
健康管理部長  
**中尾 治彦**  
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本人間ドック学会社員(旧評議員)ドック専門医・認定医  
日本外科学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器外科学会認定医  
日本医師会認定産業医  
九州予防医学研究会理事



特別顧問  
**石丸 忠之**  
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒  
医学博士  
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医  
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員  
日本産婦人科手術学会功労会員  
日本エンドメトリオース学会顧問  
絨毛性疾患研究会顧問  
日本医師会認定産業医



部長  
**寺園 敏昭**  
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長  
**本多 幸**  
(ほんだ みゆき)

長崎大学 平成4年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医



医師  
**永尾 奈津美**  
(ながお なつみ)

2015年4月就勤

佐賀大学 平成21年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医  
日本リウマチ学会専門医



医師  
\*神経内科(診療部長)と兼任  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医

非常勤  
**橋爪 聡**  
(はしづめ さとし)

日本外科学会専門医  
日本ヘリコプター学会認定医  
日本医師会認定産業医

非常勤  
**田中 伴典**  
(たなか とものり)

富山大学 平成21年卒

非常勤  
**石田 佳央理**  
(いしだ かおり)

藤田保健衛生大学 平成25年卒  
2015年4月就勤

非常勤  
**板倉 英世**  
(いたくら ひでよ)

金沢大学 昭和38年卒  
医学博士  
長崎大学名誉教授  
日本医師会認定産業医  
2015年3月退職

非常勤  
**野々下 晃子**  
(ののした あきこ)

久留米大学 平成8年卒  
日本産科婦人科学会専門医  
2015年3月退職

非常勤  
**橋迫 美貴子**  
(はしざこ みきこ)

九州大学 平成20年卒  
2015年3月退職



## 基本理念・基本方針

### 【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

### 【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報等の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

## 施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立

2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称  
(新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る)

2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

## 認定施設・指定

- ・人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.2)認定施設
- ・マンモグラフィ検診画像認定施設
- ・健康保険組合連合会指定健診施設
- ・全国健康保険協会管掌健診指定施設

## 健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、竹尾は脳ドック、本多は内科一般、永尾は内科一般、橋爪は内視鏡を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

## 健診実績

	2012年度	2013年度	2014年度
1日(日帰り)ドック	1,493	1,631	1,552
2日(宿泊)ドック	354	347	338
健診受診者総数	15,180	15,844	16,559

## 健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	3,107
胃透視	1,890
腹部超音波	2,212
心電図	5,828
胸写	7,480
肺CT	645

検査名	実績数
マンモグラフィ	2,483
乳腺超音波	387
脳MRI	346
便潜血	5,501
子宮頸部	2,917
子宮体部	159

## 研修医の紹介

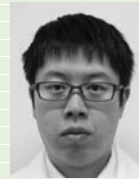


### 村田 和樹

(むらた かずき)  
佐賀大学 平成26年卒

病院全体で「研修医を育てよう」としてくださる雰囲気を常に感じ、おかげで数多くの症例や手技を経験できた濃密な1年でした。この環境に身を置ける幸運に感謝しながら来年も頑張りたいと思います。

研修期間：2014年4月1日～2016年3月31日



### 田島 和昌

(たじま かずあき)  
長崎大学 平成26年卒

昨年度は長崎大学病院で研修をしていました。大学病院での研修でできなかった手技をしたり、救急対応などしたり、今後に活かせる研修にしたいと考えています。よろしくお願ひします。

研修期間：2015年4月1日～2016年3月31日



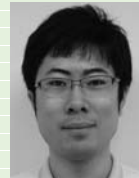
### 池田 貴裕

(いけだ たかひろ)  
長崎大学 平成25年卒

冠動脈造影、上部・下部消化管内視鏡、気管支鏡などの検査、開胸・開腹、虫垂炎、肺部分切除、血栓除去、静脈瘤の手術の執刀など、数多くの手術・手技を経験することができ、充実した研修になりました。

研修期間：2013年4月1日～2015年3月31日

2015年3月退職 長崎大学病院へ



### 伊藤 達弘

(いとう たつひろ)  
長崎大学 平成25年卒

私は中央病院での1年間の研修を、本当にのびのびと過ごすことが出来ました。充実した設備、スタッフ同士のコミュニケーション、待遇の良さなど、どれをとっても最高の水準だと思いました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

研修期間：2014年4月1日～2015年3月31日

2015年3月退職 浜松医科大学へ



### 梅根 隆介

(うめね りゅうすけ)  
長崎大学 平成25年卒

糖尿病センター研修中に糖尿病性腎症患者の内シャント造設術を経験したり、外科研修中に麻酔科研修の延長として手術麻酔を担当したりと、各科の垣根を越えた幅広い研修をさせていただきました。

研修期間：2014年4月1日～2015年3月31日

2015年3月退職 長崎大学病院へ



# 学会発表実績

## 呼吸器内科

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 11月14日	第11回長崎県北COPD研究会	当院における在宅酸素療法の現状	小林 奨

## 腎臓内科

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 6月17日	協和発酵キリン(株)社員研修会	透析患者におけるビタミンD投与と 筋肉量の変化に関する検討	森 篤史

## 神経内科

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 5月14日	協和発酵キリン(株)主催 社員教育講演	当院におけるパーキンソン病患者の状況	竹尾 剛
2014年 7月16日	グラクソスミスクライン(株)主催 長崎PD Management Meeting 2014	進行期パーキンソン病治療の実態と 治療に難渋した症例	竹尾 剛
2014年 7月23日	難病患者等ホームヘルパー 養成研修会	難病の基礎知識I	竹尾 剛
2014年 9月1日	大塚製薬(株)主催 社内勉強会	当院におけるパーキンソン病治療経験	竹尾 剛
2014年 9月5~6日	障がい福祉サービス事業所 研修会	神経難病について	竹尾 剛
2014年 9月8日	佐世保市薬剤師会学術講演会	新規抗パーキンソン病薬について	竹尾 剛

### 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 6月13日	第15回長崎県北脳卒中研 究会学術講演会	急性期・回復期のMSWの取り組 みと課題	1. 佐世保市立総合病院 医療ソーシャルワーカー 酒井 基成先生 2. 耀光リハビリテーション 病院 医療ソーシャルワーカー 田淵 真理子先生	竹尾 剛
2014年 6月17日	第2回県北パーキンソン病 治療学術講演会	パーキンソン病の夜間症状とその 対策	諫早総合病院 副院長 長郷 国彦先生	竹尾 剛

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 6月24日	第117回 県北神経懇話会	1. 選択的セロトニン再取り込み阻 害剤レクサプロ錠10mgについて 2. 薬物乱用頭痛および慢性偏頭 痛の検討 3. イオフルバンの使用経験 4. SCSを施行したNMOによる横 断性脊髄炎後疼痛の1例 5. HIV関連トキソプラズマ脳症の 一例 6. 舟状頭蓋児に対する骨延長器 による頭蓋拡大形成治療 7. 症状が急性増悪した海綿状脈 洞部部分血栓化動脈瘤に対し てoverlapping stentで治療 を行った1例	1. 田辺三菱製薬(株)学術情報室 2. 佐世保共済病院 脳神経 外科 川口 務先生 3. 長崎川棚医療センター 神経内科・臨床研究部 中根俊成先生、前田泰宏 先生、権藤雄一郎先生、 松屋合歓先生、永石彰子 先生、福留隆泰先生、松 尾秀徳先生 4. 長崎医療センター・西九州脳 神経センター 脳神経外科 浦崎永一郎先生、豊田啓 介先生、定方英作先生 佐世保中央病院 神経内科 竹尾 剛 5. 佐世保中央病院 脳神経外科・病理部 高原正樹、小林広昌、竹本 光一郎、阪元政三郎、米 満伸久 日本赤十字社福岡赤十字 病院 脳神経外科 継 仁 先生 6. 佐世保市立総合病院 脳神経外科 牛島隆二郎 先生、金本 正先生、林 之 茂先生、松尾義孝先生、 上之郷眞木雄先生 長崎大学 形成外科 矢野 裕規先生 7. 長崎労災病院 脳神経外科 藤本隆史先生、廣瀬誠先 生、川原一郎先生、白川 靖先生、鳥羽 保先生	竹尾 剛 阪元政三郎

## リウマチ・膠原病センター

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2014年 4月24～26日	第58回日本リウマチ学会 総会・学術集会	当院におけるトシリズマブ皮下注製剤の使用経験	植木 幸孝
		当院におけるMTX新規導入患者背景・予後の変化—MTX増量可能を境として	荒牧 俊幸
		トシリズマブ効果不十分であった関節リウマチに白血球除去療法を併用し著効した2例	梅田 雅孝
		生物学的製剤投与中の関節リウマチ患者への質問紙による満足度調査	菅沼 徳恵
2014年 6月24日	第39回東北膠原病研究会	関節リウマチにおけるミゾリピンの使用成績—ミゾリピン単回内服療法の有効性の検討—	植木 幸孝
2014年 7月4日	神奈川リウマチ研究会	ゼルヤンツの使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 8月26日	第2回トファシチニブ適正使用研究会	ゼルヤンツの使用経験～ガイドラインに適合した市販後の使用実績～	植木 幸孝
2014年 9月6～7日	第48回九州リウマチ学会	当院におけるトファシチニブの使用経験	植木 幸孝
		当院におけるエタネルセプト長期使用患者についての検討	福田 紘介
2014年 9月28日	Minodronate Expert Meeting	続発性骨粗鬆症患者におけるMinodronate月1回製剤の有用性	植木 幸孝
2014年 10月9日	第6回筑後地区生物学的製剤研究会	関節リウマチ医療連携—生物学的製剤がもたらしたもの—	植木 幸孝
2014年 10月31日	第23回東北リウマチ研究会	当院における抗TNF $\alpha$ 療法10年の治療成績～点滴製剤を中心に～	荒牧 俊幸
2014年 11月6～7日	第42回日本関節病学会	長崎県北部地域における循環型RA医療連携	植木 幸孝
2014年 11月29～30日	第29回日本臨床リウマチ学会	リウマチ医療連携と生物学的製剤	植木 幸孝
		当科におけるリウマチ性多発筋痛症の治療成績	荒牧 俊幸
2015年 3月21～22日	第49回九州リウマチ学会	薬剤中止によって自然消退し、MTX関連リンパ増殖性疾患が疑われた節外軟部組織腫瘍を呈した2例	荒牧 俊幸

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2014年 4月8日	第2回北部RAアンテナの会	ゼルヤンツ使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 5月9日	鹿児島JAK阻害剤Expert Meeting	ゼルヤンツ使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 5月10日	第7回宮崎Biological Summit 2014 Expert Discussion	ゼルヤンツ使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 5月22日	田辺三菱製薬主催 社員向け関節リウマチ治療勉強会	関節リウマチの薬物治療	植木 幸孝
2014年 6月11日	北松浦医師会学術講演会	関節リウマチ治療における診断と治療—長崎県北地域のRA連携を含めて—	植木 幸孝
2014年 6月17日	シムジア1周年記念講演会	当院におけるシムジアの使用経験	植木 幸孝



会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 6月18日	平戸市医師会学術講演会	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 —長崎県北リウマチネットワークの取り組み—	植木 幸孝
2014年 6月21日	全国アクテムラ皮下注 発売一周年記念講演会	アクテムラ皮下注の使用経験と連携体制について	植木 幸孝
2014年 6月28日	ゼルヤンツ錠発売1周年記念 講演会	ゼルヤンツ使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 7月4日	神奈川リウマチ研究会	ゼルヤンツ使用経験と今後の展望	植木 幸孝
2014年 7月16日	島原地区リウマチ治療ミーティング	RA治療における安全な生物学的製剤の使用法	植木 幸孝
2014年 8月30日	Infliximab Expert Seminar	生物学的製剤のBest Use～当院での取り組みを通じて～	植木 幸孝
2014年 9月20日	東北トシズマブ皮下注学術講演会	当院におけるトシズマブ皮下注使用経験と 長崎県北部のRA医療連携	植木 幸孝
2014年 9月28日	Minodronate Expert Meeting	続発性骨粗鬆症患者におけるMinodronate 月1回製剤の有用性	植木 幸孝
2014年 10月5日	なるほど!リウマチ公開講座 in佐世保	県北エリアにおけるリウマチ医療の地域連携	植木 幸孝
2014年 10月9日	第6回筑後地区生物学的製剤 研究会	関節リウマチ医療連携～生物学的製剤がもたらした もの～	植木 幸孝
2014年 10月17日	骨粗鬆症フォーラム in Saga	当院におけるステロイド骨粗鬆症への取り組み	植木 幸孝
2014年 10月18日	ゼルヤンツカレッジ in Tokyo	ゼルヤンツBIO効果不十分例における使用経験	植木 幸孝
2014年 11月11日	第4回水戸地区リウマチ懇話会	リウマチ治療における循環器型医療連携について ～信頼関係構築による連携機能の最大化を目指して～	植木 幸孝
2014年 11月15日	第185回名古屋皮膚科懇談会	生物学的製剤治療がリウマチ診療にもたらしたもの —チーム医療と医療連携・長崎県北リウマチネット ワークの取り組み—	植木 幸孝
2014年 11月20日	関節リウマチ医療連携セミナー IN 上越	リウマチ治療における循環器型医療連携について ～信頼関係構築による連携機能の最大化を目指して～	植木 幸孝
2014年 12月9日	Biologics User's Forum on RA In 長崎	当院における生物学的製剤のマネジメント	植木 幸孝
2014年 12月12日	薬剤師会生涯教育単位取得講演会	リウマチ治療における循環型医療連携について	植木 幸孝
2015年 1月15日	インフリキシマブBiosimilar 関節リウマチセミナー	長崎におけるインフリキシマブBiosimilar 7症例の経過	植木 幸孝
2015年 1月22日	骨粗鬆症セミナー in 大分	ステロイド骨粗鬆症の最新治療	植木 幸孝
2015年 1月23日	Immunology Forum in SASEBO	症例報告	荒牧 俊幸
2015年 1月26日	北摂RAエキスパートミーティング	ゼルヤンツのマルチターゲット機能	植木 幸孝
2015年 1月27日	田辺三菱製薬 社内勉強会	当院におけるIFX療法の10年	荒牧 俊幸
2015年 1月29日	伊万里有田地区リウマチ連携 講演会	使用経験から考える生物学的製剤と 抗リウマチ剤の効果的な使用法	植木 幸孝
2015年 2月20日	第9回呉リウマチ地域連携 ネットワーク講演会	生物学的製剤がリウマチ診療にもたらしたもの —チーム医療と医療連携—	植木 幸孝
2015年 2月23日	諫早東部地区 関節リウマチセミナー	リウマチ治療における循環型医療連携について	植木 幸孝



会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 3月12日	第12回神戸西リウマチ性疾患 連携の会	マルチターゲット効果を有するトファシチニブを 臨床でどのように使用するか	植木 幸孝
2015年 3月18日	明日の骨粗鬆症治療を考える会	ステロイド性骨粗鬆症の最新治療 ～リカルボンを中心に～	植木 幸孝

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 5月30日	佐世保地区RA勉強会	総合討論	佐世保市立総合病院 糖尿病・内分泌内科 清水 俊匡先生	植木 幸孝
2014年 6月27日	第7回県北自己免疫疾患 フォーラム	身体所見が診断の決め手となった 経験症例	みやしたリウマチ・内科 クリニック 院長 宮下 賜一郎先生	植木 幸孝
2014年 7月24日	リウマチ治療セミナー in SASEBO	アバタセプトのBest useを 目指して	佐世保市立総合病院 糖尿病・内分泌内科 副医長 野中 文陽先生	植木 幸孝
2014年 7月31日	県北リウマチネットワーク 研究会	関節リウマチの早期治療の必要性 と当院の役割	長崎大学病院第一内科 教授 川上 純先生	植木 幸孝
2014年 10月4日	第21回西九州自己免疫 疾患研究会	エタネルセプトの免疫原生について 生物学的製剤によるRAの治療戦略	熊本再春荘病院 リウマチ科 部長 森 俊輔先生	植木 幸孝
2014年 10月31日	第23回県北リウマチ研究会	当院における抗TNF $\alpha$ 療法10年 の治療成績～点滴製剤を中心に～	荒牧 俊幸	植木 幸孝
2014年 11月8日	関節リウマチカンファランス	アバタセプト皮下注射の有用性 ―自施設症例の考察―	横浜南共済病院 副院長 長岡 章平先生	植木 幸孝
2015年 1月23日	Immunology Forum in SASEBO	症例報告	荒牧 俊幸	植木 幸孝
2015年 2月5日	関節リウマチ学術講演会	免疫原生を考慮した生物学的製 剤の使い方～エタネルセプトのベ ストユース～	市民の森病院 膠原病リウマチセンター 所長 日高 利彦先生	植木 幸孝
2015年 2月13日	佐世保中央病院フォーラム	関節エコー法の臨床応用	北海道内科リウマチ科病院 理事長 谷村 一秀先生	植木 幸孝
2015年 2月17日	佐世保中央病院フォーラム	当院におけるアバタセプトの使い どころ～各Bioの使用経験から～	鹿児島赤十字病院 リウマチ内科 部長 大坪 秀雄先生	植木 幸孝
		鹿児島県における関節リウマチ医療 連携の歴史を語る	鹿児島赤十字病院 院長 松田 剛正先生	
2015年 3月3日	Sleep Symposium in 佐世保 ～生活習慣病と睡眠障害を 考える～	生活習慣病と不眠	済生会長崎病院睡眠医療 センター 上五島病院内科 佐世保佐世保中央病院睡眠 外来 近藤 英明先生	植木 幸孝
		ゴールを見据えた不眠症治療の 幕開け ―新たな治療選択肢の 登場を受けて―	国立精神・神経医療研究 センター 精神保健研究所 精神生理研究部 部長 三島 和夫先生	
2015年 3月14日	第2回県北シェーグレン 研究会	シェーグレン症候群に合併したI型 遠位尿管管アシドーシスに四肢脱 力を呈した41歳女性	佐世保市立総合病院神経内科 金本 正先生	植木 幸孝

## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Effectiveness and safety of tocilizumab therapy for patients with rheumatoid arthritis	Ann Rheum Dis published online January 5,2015	Shunsuke Mori, Tamami Yoshitama Toshihiko Hidaka, <u>Naoyuki Hirakata</u> and <u>Yukitaka Ueki</u>
当院における呼吸器疾患合併関節リウマチ患者に対する治療選択	九州リウマチ 第34巻(2) 93~99.2014.	<u>荒牧 俊幸</u> ・ <u>梅田 雅孝</u> ・ <u>寺田 馨</u> <u>植木 幸孝</u> ・ <u>川上 純</u>
成人発症スティル病との鑑別を要したinflammatory myopathy with abundant macrophages(IMAM)の1例	九州リウマチ 第34巻(2) 116~122.2014.	<u>池田 貴裕</u> ・ <u>梅田 雅孝</u> ・ <u>荒牧 俊幸</u> <u>寺田 馨</u> ・ <u>竹尾 剛</u> ・ <u>米満 伸久</u> <u>植木 幸孝</u> ・ <u>藤川 敬太</u> ・ <u>吉村 俊朗</u> <u>川上 純</u>
Determination of 4-hydroxy-2-nonenal in serum by high-performance liquid chromatography with fluorescence detection after Pre-column derivatization using 4-(N,N-dimethylaminosulfonyl)-7-hydrazino-2,1,3-benzoxadiazole	Biomed. Chromatogr.2014;28:891-894	<u>Takahiro Imazato</u> , Akina Shiokawa Yuri Kurose, Yasuha Katou Naoya kishikawa, Kaname Ohyama Marwa Fathy BakerAli <u>Yukitaka Ueki</u> , Eisuke Maehata and Naotaka Kuroda
Determination of acrolein in serum by high-performance liquid chromatography with fluorescence detection after pro-column fluorogenic derivatization using 1, 2-diamino-4,5-dimethoxybenzene	Biomed.Chromatogr.2014	<u>Takahiro Imazato</u> , Mariko kanematsu Naoya Kishikawa, Kaname Ohyama Takako Hino, <u>Yukitaka Ueki</u> Eisuke Maehata and Naotaka Kuroda
Rheumatoid arthritis complicated with severe liver injury during treatment with abatacept	Mod Rheumatol,2014;Early Online:1-3	Nozomi Iwanaga, Tomoki Origuchi <u>Kaoru Terada</u> , <u>Yukitaka Ueki</u> Yasuhiko Kamo, <u>Noboru Kinoshita</u> <u>Nobuhisa Yonemitsu</u> , Shin-ya Kawashiri, <u>Kunihiro Ichinose</u> Mami Tamai, Hideki Nakamura and Atsushi Kawakami
Risk factors of adverse events during treatment in elderly patients with rheumatoid arthritis:an observational study.	Int J Rheum Dis.2014 Apr 10.doi:10.1111/1756-185X.12348	Iwanaga N, Arima K, <u>Terada K Ueki Y</u> , Horai Y, Suzuki T Nakashima Y,Kawashiri SY <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H Aoyagi K, Kawakami A, Origuchi T
Baseline low Modified Health Assessment Questionnaire(MHAQ) predicts the atate of remission estimated by Clinical Disease Activity Index and MHAQ at 1 year in tocilizumab-treated rheumatoid arthritis patients	RHEUMATOLOGY 2014,32,3 Pg.(Page ofRheumtology Joulal)0445	S.Kawashiri, <u>Y.Ueki</u> , K.Migita H.Nakamura, K.Aoyagi A.Kawakami

## 糖尿病センター

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2014年 5月22日～24日	第57回 日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者の教育入院におけるTime tradeに 関する検討	森 芙美
		病棟血糖コントロールの標準化に向けて —マニュアル作成と看護師へのアンケート—	松本 一成
		POCT対応機器による血糖測定値の偽性低値 ～血漿浸透圧の影響についての検討	森 良孝
2014年 8月31日	第9回 臨床コーチング研究会2014	行動療法を利用したステップ運動の指導に関する 検討	松本 一成
2014年 10月31日 ～11月1日	第52回 日本糖尿病学会九州地方会	病棟血糖コントロールの標準化とヒヤリ・ハット報告 について	松本 一成
		発症時に心筋炎の合併が疑われた劇症1型糖尿病 の1例	森 良孝
		不安定プラークを有すると思われる糖尿病患者の 臨床的特徴について	二里 哲朗

### 講演会・セミナー

会期	学会名	演題	講師
2014年 4月7日	日本イーライリリー(株)主催 糖尿病学術講演会	周術期の血糖管理—エビデンスと実際の指示の出 し方—	松本 一成
2014年 4月13日	日本イーライリリー(株)主催 DM Coaching Skill Up Workshop	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対 話術	松本 一成
2014年 4月18日	日本イーライリリー(株)主催 セミナー	タイプ別対応を知ると苦手な患者さんでも大丈夫 —糖尿病タイプ別コーチング—	松本 一成
2014年 4月20日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 主催セミナー	あなたが変われば患者も変わる—SMBG指導に役 立つコーチング手法—	松本 一成
2014年 4月21日	日本イーライリリー(株)主催 看護師向けWeb講演会	糖尿病患者さんがインスリン治療を受け入れやす くなる対話術	松本 一成
2014年 5月9日	糖尿病教育研究会	糖尿病患者のやる気を引き出す医療面接—糖尿病 コーチング—	松本 一成
2014年 6月7日	日本イーライリリー(株)主催 スタッフの為の糖尿病教室	糖尿病患者さんが自ら行動を変える対話～糖尿病 コーチングのやり方	松本 一成
2014年 6月11日	日本イーライリリー(株) 伊万里 有田地区糖尿病学術講演会	周術期の血糖管理—エビデンスと実際の指示の出 し方—	松本 一成
2014年 6月20日	MSD(株)主催 生活習慣病セミナー	患者さんのやる気を引き出す技法～糖尿病コー チング～	松本 一成
2014年 6月23日	協和発酵キリン(株)主催 社員研修会	糖尿病の治療戦略	森 良孝
2014年 7月4日	第2回 Diabetes Expert Seminar	シタグリブチンと基礎インスリンで治療した高齢2 型糖尿病の1例	松本 一成
2014年 7月6日	第9回 東海地区小児糖尿病サ マーキャンプ研究会	糖尿病患者が主体になる対話法 —コーチング・ス キルの使い方—	松本 一成
2014年 7月7日	長崎市北部・西彼糖尿病研究会	周術期の血糖管理～エビデンスと実際の指示の出 し方～	松本 一成
2014年 7月11日	諫早医師会学術講演会	食後高血糖は本当に危険なのか?—糖尿病治療の ABCDE2とは?—	松本 一成
2014年 7月12日	糖尿病療養指導技術向上講演会	糖尿病患者さんを主体にする対話法—糖尿病コー チング—	松本 一成

会 期	学 会 名	演 題	講 師
2014年 7月14日	佐世保市医師会若手の会 学術講演会	食後高血糖は本当に危険なのか?—糖尿病治療の ABCDE2とは?—	松本 一成
2014年 7月24日	糖尿病治療セミナー	糖尿病治療についてのコーチング	松本 一成
2014年 7月25日	糖尿病チーム医療の為に懇親会 特別講演会	糖尿病患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対話術	松本 一成
2014年 8月6日	武田薬品工業(株)主催 社員研修会	糖尿病の治療戦略	松本 一成
2014年 8月9日~10日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 主催セミナー	あなたが変われば患者も変わる—SMBG指導に役 立つコーチング手法—	松本 一成
2014年 8月18日	糖尿病治療スキルアップセミナー	糖尿病患者との医療面接のコツ—コーチングの使 い方—	松本 一成
2014年 8月26日	田辺三菱製薬(株)主催 社内勉強会	佐世保中央病院における糖尿病治療と医療連会に ついて	森 良孝
2014年 9月6日	インスリンセミナー 2014	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 —糖尿 病コーチング—	松本 一成
2014年 9月12日	川内糖尿病連携勉強会	糖尿病患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対話術	松本 一成
2014年 9月16日	糖尿病スキルアップ勉強会	糖尿病患者のやる気を引き出す対話術 —コーチ ングの使い方—	松本 一成
2014年 9月26日	徳島県糖尿病トータルケア懇話会 2014	方法からはじめる糖尿病の医療面接 —コーチ ングの使い方—	松本 一成
2014年 10月3日	上五島学術講演会	糖尿病患者のやる気を引き出す対話術~コーチ ングの使い方~	松本 一成
2014年 10月14日	東彼杵群医師会火曜会生涯教育 講座	食後高血糖は本当に危険なのか?—糖尿病のABC DE2とは?—	松本 一成
2014年 10月17日	第2回 八女筑後CDE研究会	糖尿病患者さんを主体的にする対話術—糖尿病 コーチング—	松本 一成
2014年 10月29日	下関糖尿病治療を考える会	糖尿病患者さんを主体的にする対話術—糖尿病 コーチング—	松本 一成
2014年 11月11日	日本イーライリリー(株)主催 研修会	当院におけるインスリンデグレルデグの使用経験	森 良孝
2014年 11月12日	第35回 県北医療薬学研究会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 —糖尿 病コーチング—	松本 一成
2014年 11月14日	東部糖尿病セミナー	患者さんのやる気を引き出す技法~糖尿病コーチ ング~	松本 一成
2014年 11月15日	DM Coaching Skill Up Workshop in IWATE	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対 話術	松本 一成
2014年 11月19日	第312回 県北臨床内科医会	SGLT2阻害薬のリスクとベネフィットを考える—治 験経験を踏まえて—	松本 一成
2014年 11月28日	栃木県芳賀群市糖尿病治療を 考える会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 —糖尿 病コーチング—	松本 一成
2014年 12月1日	久留米糖尿病症例検討会	糖尿病患者さんを主体的にする対話術~糖尿病 コーチング~	松本 一成
2014年 12月3日	Diabetes Academy In 北九州	糖尿病患者の心理と行動を診る	松本 一成
2014年 12月4日	長崎県北糖尿病学術講演会	リナグリプチンの処方経験について	二里 哲朗
2014年 12月8日	ノボルディスク ファーマ(株) 社内臨床講座	ビクトーザ・トレシーバの使用経験について	二里 哲朗
2014年 12月9日	武田薬品工業(株) 社内研修会	糖尿病の治療戦略	二里 哲朗

会期	学会名	演題	講師
2015年 1月31日~2月1日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 主催セミナー	あなたが変われば患者も変わる2015-SMBG指 導に役立つコーチング手法	松本 一成
2015年 2月10日	アステラス製薬(株)主催セミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿 病コーチング-	松本 一成
2015年 2月25日	田辺三菱製薬(株)主催 社内勉強会	糖尿病の薬物療法	二里 哲朗
2015年 2月27日	日本イーライリリー(株)主催 セミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿 病コーチング-	松本 一成
2015年 3月3日	日本イーライリリー(株)主催 講演会	食後高血糖は本当に危険なのか?-糖尿病治療の ABCDE2とは?-	松本 一成
2015年 3月7日	MSD(株)主催講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法~糖尿 病コーチング 生活習慣改善から薬物療法まで~	松本 一成
2015年 3月11日	日本イーライリリー(株)主催 セミナー	患者さんが自ら考える-コーチングの技術-	松本 一成
2015年 3月13日	MSD(株)主催講演会	周術期の血糖管理~エビデンスと実際の指示の出 し方~	松本 一成

## 循環器内科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2014年 8月22日	第21回日本心血管インターベン ション治療学会 九州・沖縄地方会	左室心尖部血栓症によって左冠動脈主幹部閉塞を きたした急性心筋梗塞の1例	本田 智大
2014年 12月6日	第117回日本循環器学会 九州地方会	冠動脈バイパス術後に生じた静脈グロム反性瘤に 対するPCI加療19か月後に胸骨骨髓炎の再燃を 認めた例	赤司 良平
		冠動脈病変を伴わない心室中隔穿孔の原因に たこつぼ心筋症が疑われた1例	本田 智大
		逆たこつぼ型の左室収縮能異常を呈し、 急性循環不全を伴った褐色細胞腫の1例	池田 貴裕

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2014年 4月11日	Misagoスモールミーティング in 嬉野	症例検討	赤司 良平
2014年 6月14日	長崎循環器卒後セミナー	超短時間作用型β遮断薬を用いて心拍管理を 行った心房細動を伴う甲状腺クリーゼの1例	伊藤 達弘
		逆たこつぼ型の左室収縮能異常を呈した褐色細胞 腫の1例	池田 貴裕
2014年 6月17日	西海脳卒中病診連携学術講演会	新規経口抗凝固薬の使い分け	中尾功二郎
2014年 6月20日	第7回県北周術期管理懇話会	ランジオロールで心拍管理を行った 頻脈性心房細動を伴う甲状腺クリーゼの1例	本田 智大
2014年 6月24日	循環器疾患勉強会	高血圧ガイドライン(2014)より	木崎 嘉久
2014年 6月28日	不整脈講演会-長崎県医師会 生涯教育認定講座-	当院における条件付きMRI対応ペースメーカーに 対するMRI検査の現状	本田 智大
2014年 7月3日	第6回長崎県東循環器地域連携 パス研究会	県北における最新のパス状況について	木崎 嘉久



会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 9月10日	武田薬品工業(株)社外講師勉強会	カテーテルインターベーション加療(PCI)と 抗血小板薬	木崎 嘉久
2014年 11月17日	第47回東北臨床循環器懇話会	当院におけるたこつぼ心筋症の検討 -心不全とその予後について-	木崎 嘉久 中尾功二郎 赤司 良平 本田 智大
2015年 1月23日	長崎EVT研究会	症例提示	赤司 良平
2015年 2月17日	久留米大学 TQM講習会 (クリニカルパス研修会)	地域連携へ～実地の中からみえるもの～	木崎 嘉久
2015年 3月20日	第52回循環器カンファランス21	不整脈診療の潮流	中尾功二郎

### 座長・コメンテーター

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 4月15日	第63回 東北ハートカンファランス	急性大動脈解離の保存的加療 ～血压管理を中心に～	谷口 真一郎	木崎 嘉久
2014年 4月18日	新規抗凝固薬 学術講演会	心房細動への挑戦 ～新規抗凝固薬の有用性と カテーテルアブレーションの 進歩～	医療法人社団高邦会 福岡山王 病院ハートリズムセンター長 国際医療福祉大学大学院 教授 熊谷 浩一郎先生	木崎 嘉久
2014年 5月12日	心房細動治療講演会	心房細動の病態と治療 (当科でのイグザレルト使用経験)	長崎大学病院 循環器内科 講師 深江 学芸先生	木崎 嘉久
2014年 5月30日	第1回佐世保デバイス治療 カンファランス ～デバイス治療の最前線～	MRI対応ペースメーカーの トレンド	東京都立多摩総合医療センター 循環器内科 医長 二川 圭介先生	中尾功二郎
2014年 6月6日	高血圧学術講演会	ARB/利尿薬配合剤の位置づけ ～新ガイドラインをふまえて～	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副院長・高血圧センター長 土橋 卓也先生	木崎 嘉久
2014年 6月20日	第7回 東北周術期管理懇話会	ランジオロールで心拍管理を 行った頻脈性心房細動を伴う 甲状腺クリーゼの一例	本田 智大	木崎 嘉久
2014年 6月28日	不整脈講演会-長崎県医師 会生涯教育認定講座-	当院における条件付きMRI対応 ペースメーカーに対するMRI検査 の現状	本田 智大	中尾功二郎
2014年 8月25日	第9回Hert Club	非侵襲的画像診断による不安定 プラークイメージのUP TO DATE ～プラークに対する薬物治療をふまえて～	新古賀病院 副院長 川崎 友裕先生	木崎 嘉久
2014年 11月29日	第8回長崎心臓リハビリ テーション研究会	多職種参加による心臓リハビリ テーションの実際	JCHO九州病院 内科 医長 折口 秀樹先生	木崎 嘉久
2014年 12月2日	第3回東北循環器連携パス 学術講演会	急性心筋梗塞治療の現状と将来 ～長期予後の改善を目指した新 たな取り組み～	松阪中央総合病院 循環器科 診療部長 谷川 高士先生	木崎 嘉久
2014年 12月10日	学術講演会	心不全治療の最近の動向 ～重症心不全の管理を含めて～	長崎大学大学院 医歯薬学 総合研究科 循環器内科学 前村 浩二先生	木崎 嘉久
2014年 12月25日	第3回学会賞等受賞記念 学術講演会	逆たこつぼ型の左室収縮能異常 を呈し、急性循環不全を伴った褐色 細胞腫の1例	池田 貴裕	木崎 嘉久
2015年 1月30日	Cardiovascular Seminar	診療ガイドラインと医療訴訟～抗 血小板療法とPPIを題材に～	水戸赤十字病院 神経内科部長 仁邦法律事務所 弁護士 大平 雅之先生	木崎 嘉久



会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 2月4日	第66回 県北ハートカンファランス	心房細動加療の現状	長崎大学病院 循環器内科 講師 深江 学芸先生	木崎 嘉久
2015年 3月7日	第3回鹿児島・長崎PCI ジョイントライブ	—	—	木崎 嘉久 (コメンテーター)

## 症例検討会

会 期	会 議 名
2014年4月15日	第63回県北ハートカンファランス
2014年7月15日	第64回県北ハートカンファランス
2014年10月7日	第65回県北ハートカンファランス
2015年2月4日	第66回県北ハートカンファランス

## 世話人会

会 期	会 議 名
2014年9月5日	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会
2014年9月29日	県北循環器連携バス世話人会
2014年11月25日	長崎県北肺高血圧症研究会世話人会
2015年2月16日	県北循環器連携バス世話人会

## 消化器内視鏡センター

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2014年 7月4日～5日	第103回日本消化器病学会 九州支部例会	CDDP+VP-16が著効した食道小細胞癌の 一例	永松 雅朗
	第97回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会	消化管出血を契機に発見されたガストリノーマの 一例	伊藤 達弘
2014年 12月5～6日	第104回日本消化器病学会 九州支部例会	当院における胃粘膜下腫瘍(SMT)に対する 治療の現状	松本 耕輔
		シングルバルーン内視鏡で診断しえた 転移性小腸小細胞癌の一例	永松 雅朗
	第98回日本消化器内視鏡学会 紀州支部例会	腹腔静脈シャント造設が有効であった重症型 アルコール性肝炎後の難治性腹水の一部 内視鏡的ネクロセクトミーを含む Dual modality drainageにより救命できた 重症急性膵炎後感染性膵壊死の一部	村田 和樹 伊藤 達弘

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 5月27日	味の素製薬(株)主催 社内研修会	慢性肝疾患治療の今後と肝硬変治療における BCAAの意義	木下 昇
2014年 7月18日	味の素製薬(株)主催 社内研修会	肝硬変治療における分岐鎖アミノ酸の意義	松崎 寿久 加茂 泰広
2014年 9月26日	産業医協会講演会	ウイルス肝炎の感染予防と治療	木下 昇
2015年 2月26日	旭化成ファーマ(株) 社内勉強会	当院におけるリコモジュリンの使用の現況	松崎 寿久
2015年 3月28日	ボストン・サイエンティフィック ジャパン(株)主催セミナー	当院で経験した膵嚢胞性腫瘍の一例	松本 耕輔

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 4月10日	第1回県北DAAS研究会	「肝炎治療の最新の話」	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 肝臓内科 橋元 悟先生	木下 昇

## 外 科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2014年 5月9日～11日	第51回九州外科学会	動脈塞栓症で止血した肝仮性動脈瘤十二指腸内 出血の1例	重政 有
		同時性遠く転移を伴う虫垂杯細胞カルチノイドノ の1例	草場 隆史
		肝硬変難治性腹水に対し腹腔静脈シャント造設が 有効であった1例	池田 貴裕
2014年 6月5日～7日	第26回日本胆肝膵外科学会・ 学術集会	大腸癌肝転移切除後、十二指腸潰瘍穿孔を原因として 発生したと考えられた肝動脈仮性動脈瘤出血の1例	重政 有
2014年 7月4日～5日	第103回日本消化器病学会 九州支部例会 第97回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会	局所進行直腸癌に対するmFOLFOX6療法による 術前補助化学療法を施行した3例の検討	重政 有
2014年 8月28日～30日	第52回日本癌治療学会学術集会	進行再発大腸癌に対するIrinotecan+S-1 (IRIS) 療法の検討	重政 有
2014年 10月2日～4日	第27回日本内視鏡外科学会総会	内側剥離からのLN#253郭清-内視鏡技術認定医 を目指した若手外科医の報告- 術後症例(再発および前立腺術後)に対する安全な 腹腔鏡下手術手技	濱田 聖暁
2014年 10月23日～26日	第22回日本消化器関連学会週間	進行再発大腸癌に対するIrinotecan+S-1 (IRIS) 療法の当院での使用経験	重政 有
2014年 11月7日～8日	第69回日本大腸肛門病学会 学術集会	術前化学療法を施行した局所進行直腸癌3例の 検討	重政 有
2014年 11月20日～22日	第76回日本臨床外科学会総会	進行再発大腸癌に対するIrinotecan+S-1 (IRIS) 療法の使用経験	重政 有
		胆嚢原発明細胞腺癌の1例	草場 隆史
2015年 3月5日～6日	第51回日本腹部救急医学会	大腸癌イレウスに対するBridge to surgeryと しての大腸ステント留置の検討	濱田 聖暁

## 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 1月19日	旭化成ファーマ(株)社内勉強会	DIC症例の検討	重政 有

## 座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2015年 2月14日	日本医療マネジメント学会 第15回長崎支部学術集会	地域包括ケアの現状と今後の展望 ~これからの医療・介護はどう変わるのか~	日本慢性期医療協会 副会長 池端幸彦先生	碓 秀樹

## 整形外科

## 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2014年 11月22日	第128回西日本整形・災害 外科学会学術集会	上腕骨近位端偽関節に対する有茎骨移植の経験	北原 博之

## 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2014年 6月21日	長崎臨床整形外科医会 学術講演会	五十肩は完治できるか	北原 博之
2014年 10月23日	第4回運動器の痛みを考える会	五十肩は完治できるか	北原 博之

## 脳神経外科

## 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2014年 6月24日	第117回 県北神経懇話会	HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例	高原 正樹
2014年 10月10日	第73回 日本脳神経外科学会 学術総会	HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例	高原 正樹
2014年 10月10日	第73回 日本脳神経外科学会 学術総会	高齢者硬膜下血腫に対する神経内視鏡支援小開頭 血腫除去術	小林 広昌
2014年 10月10日	第73回 日本脳神経外科学会 学術総会	内頸動脈急性閉塞症の緊急再開通療法における 対側頸動脈撮影を用いた逆行造影法の有用性	竹本光一郎
2014年 12月4日	第30回 日本脳神経血管内治療 学会学術総会	内頸動脈急性閉塞症の緊急再開通療法における 対側頸動脈撮影を用いた逆行造影法の有用性	竹本光一郎
2014年 12月16日	第119回 県北神経懇話会	rtPA静注開始直前に痙攣発作をきたし、診断に至つた 頭蓋内血管病変の一例	福本 博順
2015年3月 26日~29日	STROKE2015	内頸動脈急性閉塞症の緊急再開通療法における対 側頸動脈撮影を用いた逆行造影法の有用性	竹本光一郎

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 2月26日	大塚製薬(株)主催セミナー	失敗から学ぶ脳血管内治療	竹本光一郎

## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Delayed coil migrationをきたし開頭術を要した破裂遠位前大脳動脈瘤の一例	脳神経外科ジャーナル 23:510-515,214	河井 伸一・竹本光一郎・小林広昌 阪元政三郎・東登 志夫・井上 亨

## 心臓血管外科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2014年 5月22日	第42回日本血管外科学会 学術集会	慢性大動脈解離に発症した線溶亢進型播種性 血管内凝固症候群に対する治療経験	谷口真一郎
2014年 9月5日	15th Congress of Asian Society for Vasucular Surgery	A cace of surgical treatment for Leriche's syndrome with severe carotid and coronary artery diseases	谷口真一郎
2014年 11月17日	第47回東北臨床循環器懇話会	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術 200例の報告	中路 俊
2015年 1月24日	第47回日本胸部外科学会 九州地方会総会	未分化乳頭筋に対して僧帽弁形成術を施行した1例	中路 俊
2015年 1月29日	第28回心臓血管外科 ウインターセミナー学術集会	たこつぼ心筋症に合併した心室中隔穿孔の一例	中路 俊
2015年 2月16日	第101回日本血管外科 九州地方会	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術後に 発症した状腸間膜動脈症候群による十二指腸閉塞の一例	谷口真一郎

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 10月11日	腹部大動脈瘤市民セミナー	大動脈瘤を知り、大動脈瘤に克て! ー血管内治療最前線ー	谷口真一郎

## 小児科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2014年 4月6日	第192回日本小児科学会 長崎地方会	コーチングスキルを用いた小児肥満治療の 中期成績	山田 克彦
2014年 4月6日	第192回日本小児科学会 長崎地方会	起立性調節障害に対する漢方薬の有効性に ついての検討	犬塚 幹
2014年 7月10日	県北小児科医学会 第109回学術集会	当科におけるGH治療の経験	山田 克彦
2014年 12月21日	第194回日本小児科学会 長崎地方会	薬剤調整と高照度光療法で不登校から脱した 難治性頭痛の女兒例	犬塚 幹

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 4月2日	県北てんかんネットワーク講演会	県北におけるてんかん診療ネットワーク構築に向けて—小児科の立場から—	犬塚 幹
2014年 6月19日	大塚製薬(株)主催 社内研修会 講義	けいれん重積の治療、静注用抗けいれん薬について	犬塚 幹
2014年 12月11日	県北小児科医学会学術講演会	けいれん重積の診療と治療	犬塚 幹

## 放射線科

## 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2014年 6月5日～7日	第43回IVR学会総会	十二指腸憩室からの出血をきたした特発性上腸管膜動脈解離に対してステント併用コイル塞栓術を施行した一例	堀上 謙作
2014年 9月28日	第24回日本救急放射線研究会	カテコラミン心筋症を契機に発見された傍神経節腫の一例	堀上 謙作

## 認知症疾患医療センター

## 学会・研究会

会 期	学会・研究会名	演 題	発表者
2014年 5月24日	第55回日本神経学会学術集会	薬効果評価表の有用性	井手 芳彦
2014年 6月21日	アルツハイマー病エキスパート会議2014	rivastigmineパッチ使用経験	井手 芳彦
2014年 9月26日～28日	第4回日本認知症予防学会	認知症初期診断に「ブーバー・キキテスト」は有用か?	井手 芳彦

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 4月24日	認知症講演会	認知症の早期発見	井手 芳彦
2014年 7月4日	認知症講義	認知症の早期発見と対処法	井手 芳彦
2014年 7月26日	Meet the Expert	認知症診断と治療:脳血流SPECTの有用性	井手 芳彦
2014年 8月2日	長崎嚥下リハビリ研究会	認知症と摂食嚥下障害	井手 芳彦
2014年 8月4日	認知症介護実践研修	認知症の基礎と臨牀	井手 芳彦
2014年 9月7日	市民向け認知症講演会	早めの脳チェック	井手 芳彦
2014年 10月4日	キャラバンメイト養成講座	認知症の基礎と臨牀	井手 芳彦

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 12月3日	調剤薬局向け認知症講演会	レビー小体型認知症をみのがすな	井手 芳彦
2014年 12月17日	Sendagi Dementia conference	認知症疾患医療センターの役割	井手 芳彦
2015年 1月24日	九州AD研究会	レビー小体病診断のスキルアップ	井手 芳彦
2015年 1月31日	認知症画像研究会	脳血流SPECT、MIBG心筋シンチの有用性	井手 芳彦
2015年 3月14日	認知症サポート医 フォローアップ研修	事例検討「診断治療に難渋したレビー小体病」	井手 芳彦 (講師・司会)

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2014年 6月23日	認知症講演会	認知症治療の今後の展望: メマンチンへ期待	佐賀大学 精神科 教授 門司 晃先生	井手 芳彦
2014年 8月8日	認知症講演会	コリン・エステラーゼ阻害剤の 使い分け	久留米大学 精神科 小路 純央先生	井手 芳彦
2014年 9月12日	認知症学術講演会	DMと糖尿病	森 博子先生 浜野 裕先生	井手 芳彦
2014年 9月26日	認知症予防学会 ランチオンセミナー	認知症の早期診断と治療	吉岩 あおい先生	井手 芳彦
2014年 9月29日	認知症学術講演会	認知症の初期診断	本井 ゆみこ先生	井手 芳彦
2014年 11月7日	県北認知症研究会	レビー小体型認知症を 知っていますか?	織茂 智之先生	井手 芳彦

## 健康増進センター

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2014年 6月1日	第247長崎産婦人科学会・ 長崎県産婦人科医会総会	細菌性膣炎(ガルドネラ感染を中心に) -2800以上の検査対象例での検討-	石丸 忠之

### 座長

会 期	講演会・セミナー名	座 長
2014年 9月5日	第55回日本人間ドック学会学術大会	中尾 治彦